Victor
"HIS MASTER'S VOICE"

設置説明書
（データ設定説明書）

デジタルワイヤレス コミュニケーションシステム

型名 WD-1000シリーズ

－お買い上げありがとうございます－

ご使用の前にこの「**データ設定説明書**」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
そのあと、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときお読みください。

製造番号は品質管理上重要なものです。お買上げの際は本機の側面部に製造番号が正しく記されているか、またその製造番号と保証書に記載されている製造番号が一致しているかお確かめください。

私たちは環境・資源を大切にしています。
この設置説明書は再生紙（100%）を使用しています。

SS961389-005

目次

はじめに

■ システムデータ設定について 3
■ 多機能電話機の操作方法 4
■ システムデータ登録モード 6
■ ポート番号の説明 7

システム設定

1. システム設定の手順 8
2. システムソフトのロード 9
3. システムデータのロード 10
4. アラーム表示の設定 11
5. WD-MU3 のマスター設定 12
6. セルステーションのソフトダウンロード 13
7. 子機登録 14
8. 子機内線番号、名称設定 15
9. グループ数の設定 16
10. 通話グループのメンバー登録 17
11. その他のグループ通話関連設定 20
12. システムデータのセーブ 20
13. 電話機関連設定 21
14. 外線の設定 22
15. 通報及び放送関連設定 24
16. セルステーションの付加 ID 設定 25
17. システムソフトのバージョンアップ 25
18. システムソフトのバージョン番号確認 25
19. システムデータの再ロード 26
20. 動作の確認 26

コマンド説明

1. コマンド一覧 27
2. 詳細説明 27

子機設定プログラムについて

..... 68
1. 子機設定プログラムのインストール 68
2. 子機と PC の接続 70
3. 子機登録プログラム使用方法 71
4. 子機の各種設定 74
5. 子機登録 77
6. その他の機能 78

はじめに

- このWD-1000シリーズは、はじめにシステムデータを設定しないと使用できません。
  この説明書を参照してシステムデータを設定してください。
- 使用開始後に、設定を変更するときにもこの説明書を参照してください。

システムデータ設定について

デジタルワイヤレスコミュニケーションシステム（WD-1000 シリーズ）のシステムデータ設定は、多機能電話機 WD-MT10 により、下記の項目の設定を行います。

・システムソフトのロード
・設定したシステムデータのセーブ、ロード
・セルステーションの設定（マスター設定等）
・子機登録
・各種グループ通話設定
・電話機、外線の設定（必要に応じて設定）
・通報及び放送の設定（必要に応じて設定）

ポータブルトランシーバーWD-TR100(子機)とパーソナルコンピュータ(以下PCとよぶ)を専用インターフェイスを使用して接続し、下記の各種設定を行います。

・キー割付
・音量設定
・子機登録

設定したデータの内容は、主装置 WD-M100 に添付されている「局仕様書」に記入し、お客様へお渡しください。

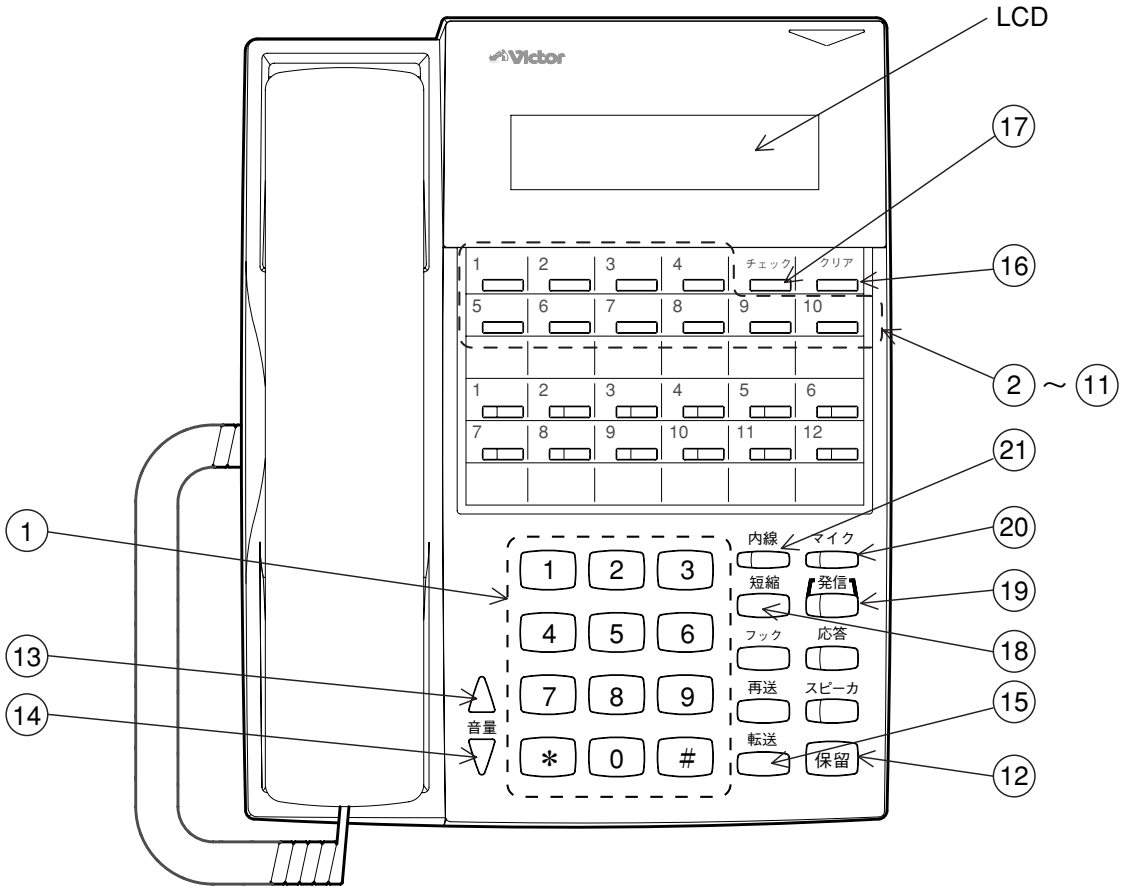
子機登録用 PC について

子機登録をするときに使用する PC に子機設定プログラムをインストールする必要があります。
P68.「子機設定プログラムについて」を参照して、子機設定プログラムを PC にインストールしてください。

多機能電話機の操作方法

システムデータの設定には多機能電話機を使用します。

1. 多機能電話機の各部名称



2. コマンドプロンプト

システムデータの書き込み時、多機能電話機のLCDに表示されるプロンプトの意味は以下の通りです。

No	表示プロンプト	プロンプトの意味
1	＞	コマンド入力待ち　▲を押す：次のコマンドへ移ります。 ▼を押す：前のコマンドへ移ります。
2	?	アドレス番号入力待ち　▲を押す：インクリメント（＋1） ▼を押す：デクリメント（－1）
3	－	データ入力待ち
4	&	表示するデータがまだ残っている事を示します。 ▲を押すと残りのデータを表示します。

3. ボタン操作方法

システムデータの設定時、多機能電話機のボタン操作方法は以下の通りです。

No	表示プロンプト	プロンプトの意味
1	0～9、＊、＃	数値の入力と変更に使用
2	ワンタッチボタン1	カタカナの行を順方向に選択します ア→カ→サ... ワ→ァ→ャ→ア...
3	ワンタッチボタン2	カタカナの行を逆方向に選択します ア→ャ→ァ→ワ... サ→カ→ア...
4	ワンタッチボタン3	アルファベットを順方向に選択します A→B→C... X→Y→Z→A...
5	ワンタッチボタン4	アルファベットを逆方向に選択します Z→Y→X... C→B→A→Z...
6	ワンタッチボタン5	特殊文字（漢字）を選択します 中→上→下→左→右→大→小→年→月→日→千→万→円→中...
7	ワンタッチボタン6	特殊文字（句読点他）を選択します ゛→゜→゛...
8	ワンタッチボタン7	スペース
9	ワンタッチボタン8	ー（ハイフン）
10	ワンタッチボタン9	：（コロン）
11	ワンタッチボタン10	特殊文字（記号）を選択します ！→"→＄→％→＆→‘→（→）→＝→｀→｜→＋→÷→／→, →. →；→・→＜ →＞→？→[→￥→]→＾→＿→{→}→右矢印→左矢印→＼→「→」→゜→、→！...
12	保留	入力データの確定に使用します。
13	▲（音量）	入力データの確定と次のコマンドへ移るために使用、また、データの長さが20文字を超えた時に残りのデータ表示に使用します。 カタカナ入力時は段を選択します →ア→イ→ウ→エ→オ
14	▼（音量）	入力データの確定と前のコマンドへ移るために使用します。カタカナ入力時は段を選択します →ア→オ→エ→ウ→イ
15	転送	1文字削除に使用します。
16	クリア	表示、データの消去に使用します。
17	チェック	カナ英字入力時の文字の確定に使用します。
18	短縮	システムデータ登録モードから通常状態に戻る時に使用します。
19	発信	カナ英字入力時。英文字の小文字、大文字のモードを切り替えます、ランプ点灯時は大文字、滅灯時は小文字です。
20	マイク	ダイヤル入力時のポーズ入力に使用します。
21	内線	データ登録モードに入る時に使用します、データ登録モード中はランプが点灯しています。

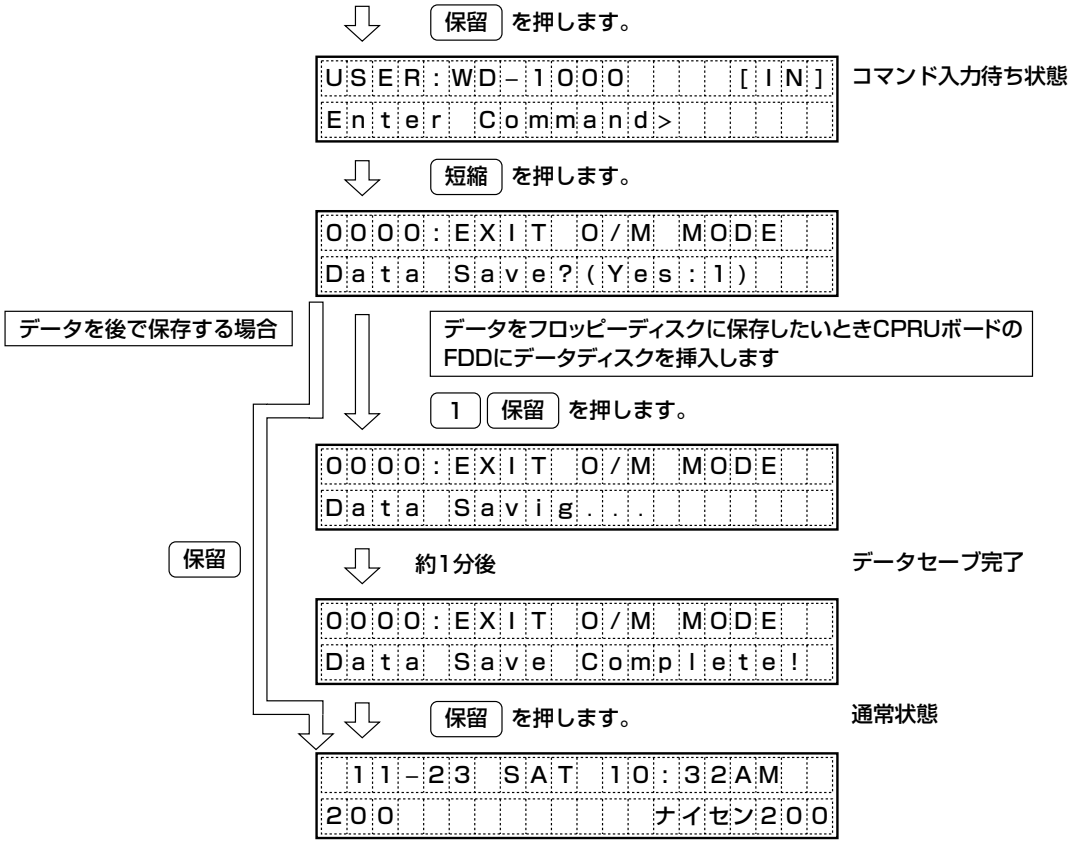
システムデータ登録モード

1. コマンド入力待ち状態にする方法

多機能電話機で下記の手順で操作してください。

2. コマンド入力待ち状態から通常状態に戻る方法

多機能電話機で下記の手順で操作してください。



ポート番号の説明

本機では、内線ポート、外線ポート、WD-AF10（放送入出力ユニット）ポートは別々にポート番号をとるようになってます。

1. 内線ポート番号

多機能電話機、子機用のシステムデータは内線ポート番号により設定します。内線ポート番号の数え方は次の通りです。
子機の内線ポート番号は、P15.「子機登録」で付与された「PS 番号」がそれに相当します。

収容スロットの番号の若い方から WD-MU2（電話機接続ボード）を連番で、1 スロットで 16 ポート分として数えます。

注意

WD-MU2は8ポート使用しますが、1枚で16ポート分として数えるため2枚WD-MU2を搭載した場合の内線ポート番号は、1枚目が1～8、2枚目が17～24となります。

2. 外線ポート番号

外線関係のシステムデータは外線ポート番号により設定します。外線ポート番号の数え方は、内線ポート番号の数え方と同様に行います。
関係するユニットは、WD-MU5（電話回線ボード）です。

注意

WD-MU5は4ポート使用しますが、1枚で16ポート分として数えるため2枚電話回線ボードを搭載した場合の外線ポート番号は、1枚目が1～4、2枚目が17～20となります。

3. ポート番号の確認

下記の手順で、多機能電話機の内線ポート番号は確認ができます。

（1）操作してる多機能電話機のポート番号の確認

（2）操作してる多機能電話機以外の電話機のポート番号の確認

システム設定

1. システム設定の手順

新規設置およびシステムソフトバージョンアップなどの場合は、下記の「新規設置時システム設定手順フロー」に従ってセットアップを行ってください。
データ登録設定を行った後は、主装置の電源スイッチをONにして、多機能電話機のLCD表示が時計表示になったら立ち上げ完了となります。

新規設置時システム設定手順フロー

2	**システムソフトのロード**	制御用プログラムをプログラムディスクから読み込みます。	P9
↓			
3	**システムデータのロード**	システムデータを初期化します。	P10
↓			
4	**アラーム表示の設定**	無効なアラーム表示を解除します。	P11
↓			
5	**WD-MU3（セルステーション接続ボード）のマスター設定**	制御の主になるWD-MU3を設定します。	P12
↓			
6	**セルステーションのソフトダウンロード**	セルステーションのソフトをダウンロードし全セルステーションを同じ状態にする	P13
↓			
7	**子機登録**	子機をシステムに登録します。	P14
↓			
8	**子機内線番号、名称設定**	子機の内線番号と名称を設定します。	P15
↓			
9	**グループ数の設定**	グループ通話のグループ数を設定します。	P16
↓			
10	**通話グループのメンバー登録**	子機を通話グループに登録します。	P17
↓			
13	**電話機関連設定**	多機能電話機の設定をします。	P21
↓			
12	**システムデータのセーブ**	設定したシステムデータをデータディスクに保存します。	P20
↓			
20	**動作の確認**	設定した項目の動作を確認します。	P26

オプションの外線接続、通報、放送を使用する場合は、P22.「外線の設定」、P23.「通報及び放送関連設定」を参照してください。
インカム子機を削除、またマスターWD-MU3を交換する場合はP20.「その他のグループ通話関連設定」を参照してください。
この他、詳細設定を行う場合はP27.「コマンド説明」を参照してください。

この場合も、設定後P20.「システムデータのセーブ」を行ってください。

セーブしたシステムデータを再びロードする場合はP25.「システムデータの再ロード」を行ってください。

2. システムソフトのロード

本機は、新規設置時に制御用のプログラムが入っていません、以下の手順でプログラムディスクから読み込む必要があります。

(1) 準備

電源投入前にCPRUボードにメモリバックアップ電池が実装されていることを確認し、CPRUボードのFDDにプログラムディスクを挿入してください。

(2) プログラムロード

CPRU ボードのプログラムロード用スイッチを押しながら、主装置の電源スイッチを ON にしてください。
CPRU ボードの RUN ランプと AL5 ランプが点灯していることを確認後、プログラムロード用スイッチを離してください。

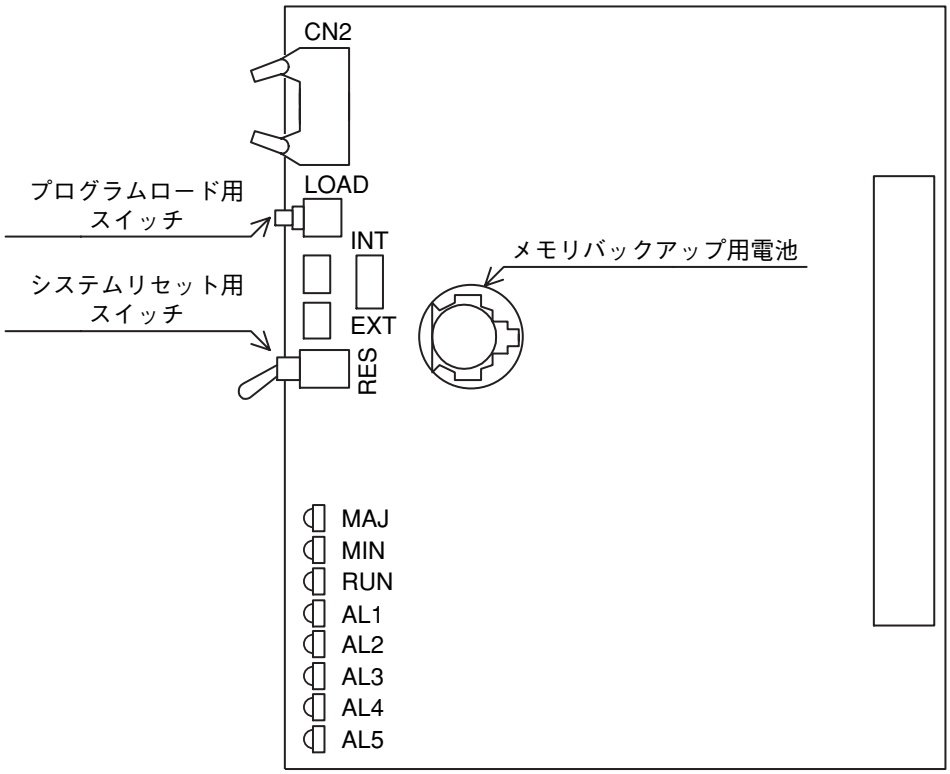
(3) リセット

約5分後にRUNランプが点灯し、AL1～AL5ランプがすべて点滅した状態となったら、CPRUボードのシステムリセット用スイッチを上側に押してリセットをしてください。

(4) 終了

約２～４分後に多機能電話機の LCD が時計表示になります。
これで、システムソフトのローディングが完了しました。
この後 MAJ ランプと AL4 ランプ（アラーム表示）が点灯しているため P12 のアラーム表示の解除を行ってください。
CPRUボードのFDDからプログラムディスクを抜き取り、主装置内部のディスク保管ケースなどに保管しておいてください。

CPRUボードのスイッチおよびLED表示については、下図及び設置説明書（工事説明書）のP22～P23を参照して下さい。



注意

フロッピーディスクからシステムプログラムを読み込むときは必ず停電補償電池WD-NB10が接続されていることを確認してから行ってください。電池を接続しない状態でシステムプログラムの読み込み中に電源が切れますと、本体が立ち上がらなくなる危険性があります。

3. システムデータのロード

この設定では、本機のシステムデータを初期化します。

(1) 準備

CPRUボードのFDDにディスクが挿入されていない状態で、CPRUボードのプログラムロード用スイッチを押しながらシステムリセットスイッチを上側に押してリセットしてください。

(2) ロード終了

約２～４分後に多機能電話機のLCDが時計表示になります。これで、システムデータのローディングが完了しました。

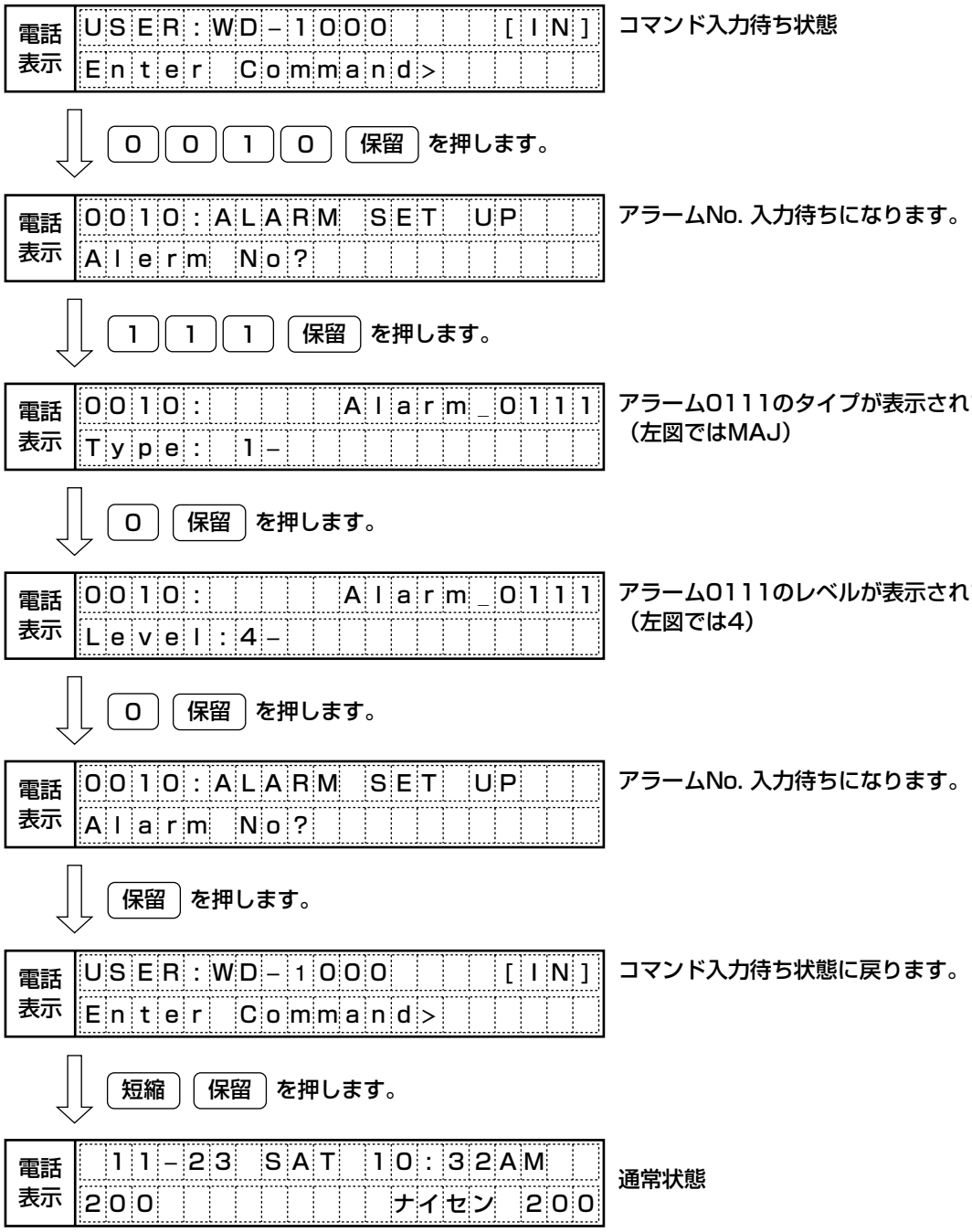
システムフロッピーディスクについて

WD-1000シリーズのシステムフロッピーディスクは、「プログラムディスク」と「データディスク」の３．５インチフロッピーディスク２枚１組となっています。

ディスク名称	内容	ラベル表示
プログラムディスク	システムを動作させるプログラムのみが入ってるフロッピーディスクです。	WD-1000 プログラムディスク VER. x. xx 日本ビクター株式会社
データディスク	システムデータを設定後、保存するために使用するフロッピーディスクであり、工場出荷時には空の状態です。	WD-1000 データディスク 日本ビクター株式会社

4. アラーム表示の設定

この設定では、無効なアラーム表示 MAJ と AL4 を解除して、アラーム表示の LED をクリアします。
多機能電話機からシステムデータ登録モードに入ります。
システムデータ登録モードへの入る方法および通常モードへの復帰の方法は、P6.「システムデータ登録モード」を参照してください。



CPRU ボードのシステムリセットスイッチを押してリセットをしてください。

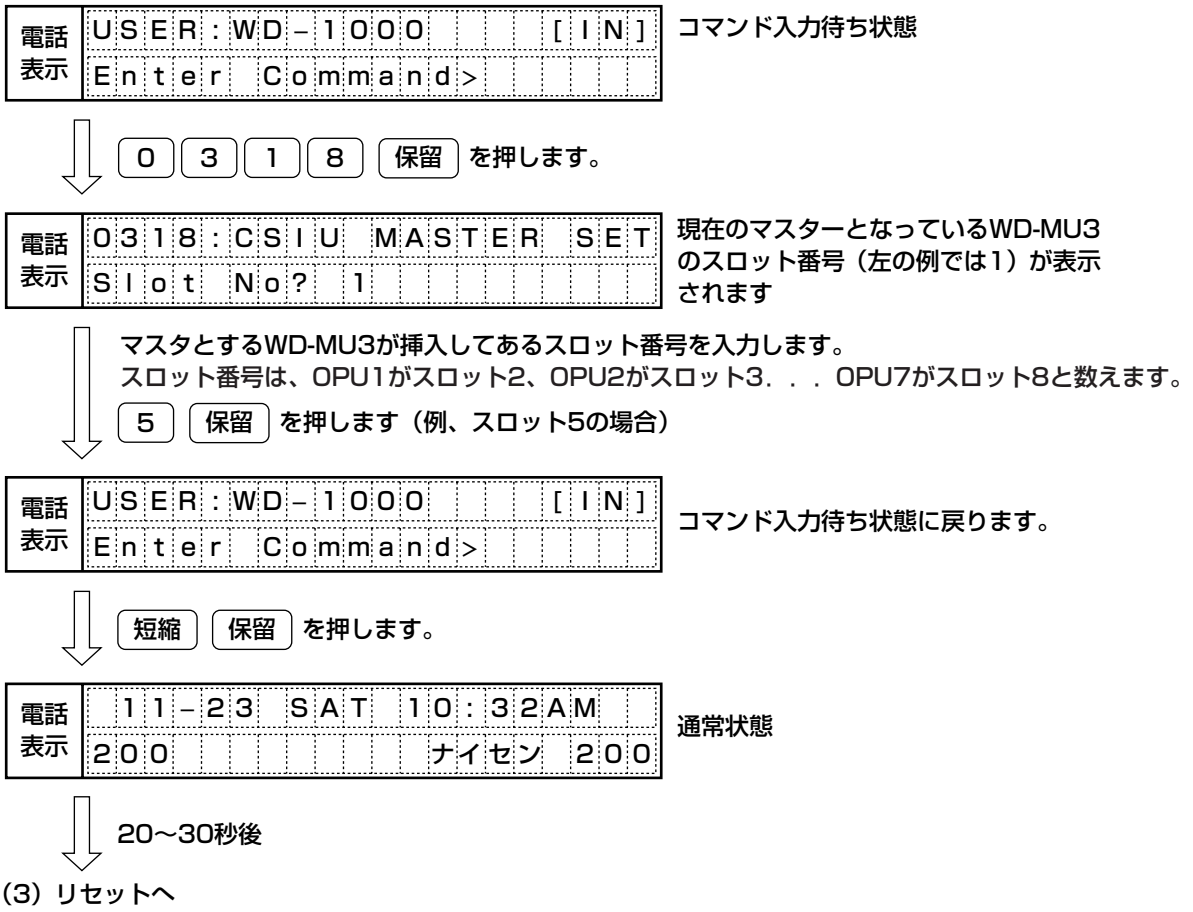
約２～４分後に多機能電話機の LCD が時計表示になります。
CPRU ボードの MAJ、MIN、AL1 ～ AL5 ランプが全て消灯してる事を確認してください。
MAJ、MIN、AL1 ～ AL5 ランプが点灯してる場合は、P30 および設置説明書（工事説明書）の P23 を参照して障害原因を取り除いてください。

5. WD-MU3（セルステーション接続ボード）のマスター設定

この設定では、制御の主（マスター）になる WD-MU3 を設定します。
この設定を行わないと、グループ通話は行えません。

（1）設定準備
多機能電話機からシステムデータ登録モードに入ります。

（2）マスタ設定



（3）リセットへ

（3）リセット
通常状態になったあと約 20 ～ 30 秒後に全 WD-MU3 にリセットがかかり、全 WD-MU3 の PLT（RUN 表示 LED）が 1 秒 ON － 1 秒 OFF の点滅になります。

WD-MU3 のスイッチおよび LED 表示については、設置説明書（工事説明書）の P35 を参照してください。

（4）終了
マスタ WD-MU3 の BL1（マスター表示 LED）は点灯、スレーブ WD-MU3 の BL1 は消灯していることを確認してください。これで、WD-MU3 のマスター設定は完了です。

詳細について、設置説明書（工事説明書 ）の P36 を参照してください。

6. セルステーションのソフトダウンロード

この設定では、システムからセルステーションにソフトをダウンロードして最新バージョンにします。

（1）WD-MU3（セルステーション接続ボード）のセルステーション状態表示LED（BL3～6,工事説明書の35ページ参照）が、接続しているWD-T100に対応して消灯していることを確認します。

（2）多機能電話機からシステムデータ登録モードに入ります。

電話表示
USER:WD-1000 [IN]
Enter Command>

コマンド入力待ち状態

↓ 0 1 5 0 保留 を押します。

電話表示
0150:CS F/W Download
CS No?

↓ 0 保留 を押します。

電話表示
0150:CS F/W Download
New(1) Restore(2)

↓ 1 保留 を押します。

電話表示
0150:CS F/W Download
Downloading..Last 12

○最後に表示される数字（左の例では12）が接続されているセルステーションの数です。
実際に接続されている下図と一致しない場合は
保留 保留 保留 短縮 保留
を押して多機能電話機の表示を通常状態に戻し（1）からやり直してください。
○ダウンロードはセルステーション、1台毎に行われ、1台終了する度に上記の数は減少します。

↓

電話表示
0150:CS F/W Download
Download End

左の表示が出ると終了です。

↓ 保留 を押します。

電話表示
0150:CS F/W Download
CS No?

↓ 保留 を押します。

電話表示
USER:WD-1000 [IN]
Enter Command>

コマンド入力待ち状態に戻ります。

↓ 短縮 保留 を押します。

電話表示
11-23 SAT 11:45AM
200 ナイセン 200

通常状態

（3）WD-T100が自動的にリセットされます。WD-MU3のセルステーション状態表示LEDが、接続しているセルステーションに対応して消灯すればリセット完了です。

（4）コマンド〈0143〉「セルステーションデータの参照」で各セルステーションのソフトバージョンを確認してください。

7. 子機登録

下記の手順で子機登録をして下さい。子機登録が完了しても、以下の「グループ数の設定」および「通話グループのメンバー登録」を行わないと接続できません。
PS番号、暗証番号以外の子機の各種設定（スイッチ機能割付等）は子機登録前でも子機登録後でもできます。
PC 操作の詳細については、P68.「子機設定プログラムについて」を参照してください。

注意

マスターセルステーションが通話で使用中の場合は、子機登録はできません。他の全ての子機の電源を切っておいてください。
多機能電話機に表示される「PS番号」は局仕様書に記入してください。

電話操作	多機能電話機からシステムデータ登録モード入ります。

電話表示	USER:WD-1000 [IN] Enter Command>	コマンド入力待ち状態

電話操作	2 9 0 1 保留 を押します。

電話表示	2901:PHS PS ENTRY Ready? (Yes:1)	マスターセルステーションが通話で使用中は Register Err と表示されます。この場合は 保留 を押し、全ての子機の電源を切ってから、やりなおしてください。

PC操作	子機とPCを接続して、電源を入れます。（P66を参照）
電話操作	子機登録の準備が出来たら 1 保留 を押します。 子機登録を終了する場合は 保留 を押します。

電話表示	2901:PHS PS ENTRY PS_NO:020 PASS:4567	PS番号（左の例では020）と暗証番号（左の例では4567）が表示される

PC操作	多機能電話機のLCDに表示された、PS番号、暗証番号を入力し「設定書き込み」をクリックします。。 「子機登録」をクリックします。

PC表示	PC画面に状態「子機登録実行中」と表示されます。

時間は数十秒から数分

PC表示	PC画面に状態「子機登録完了」と表示されます。それ以外の表示の場合は、P73.子機登録を参照してください。。

電話表示	2901:PHS PS ENTRY Entry O.K!	子機登録完了 子機の登録が正常に終了しました。

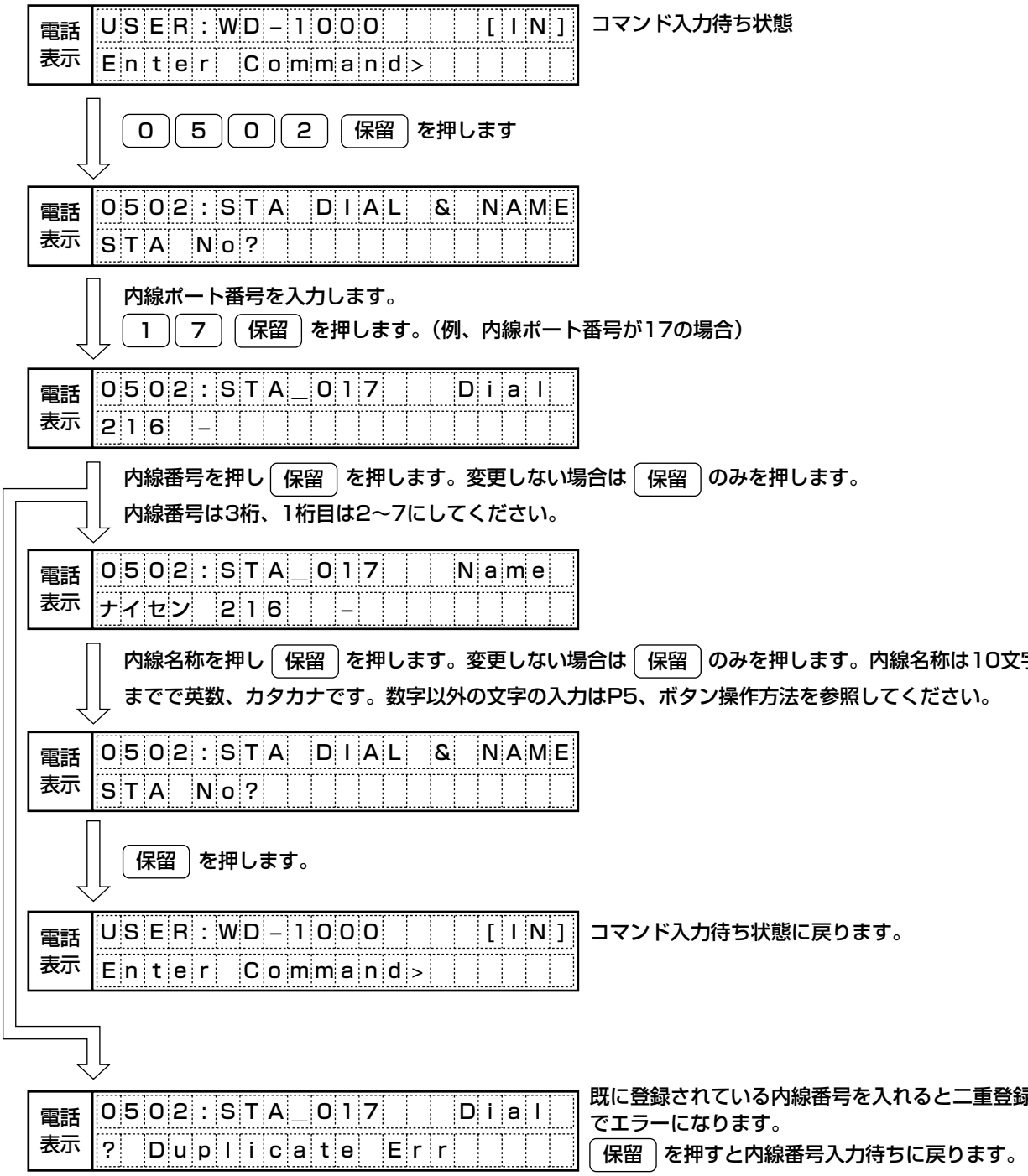
電話表示	2901:PHS PS ENTRY Time Out!	子機登録失敗 子機の登録に失敗しました、子機登録をやりなおしてください。

電話操作	保留 を押します。

8. 子機内線番号、名称設定

子機登録後に、各子機の内線番号と名称を設定します。

多機能電話機からシステムデータ登録モードに入ります。



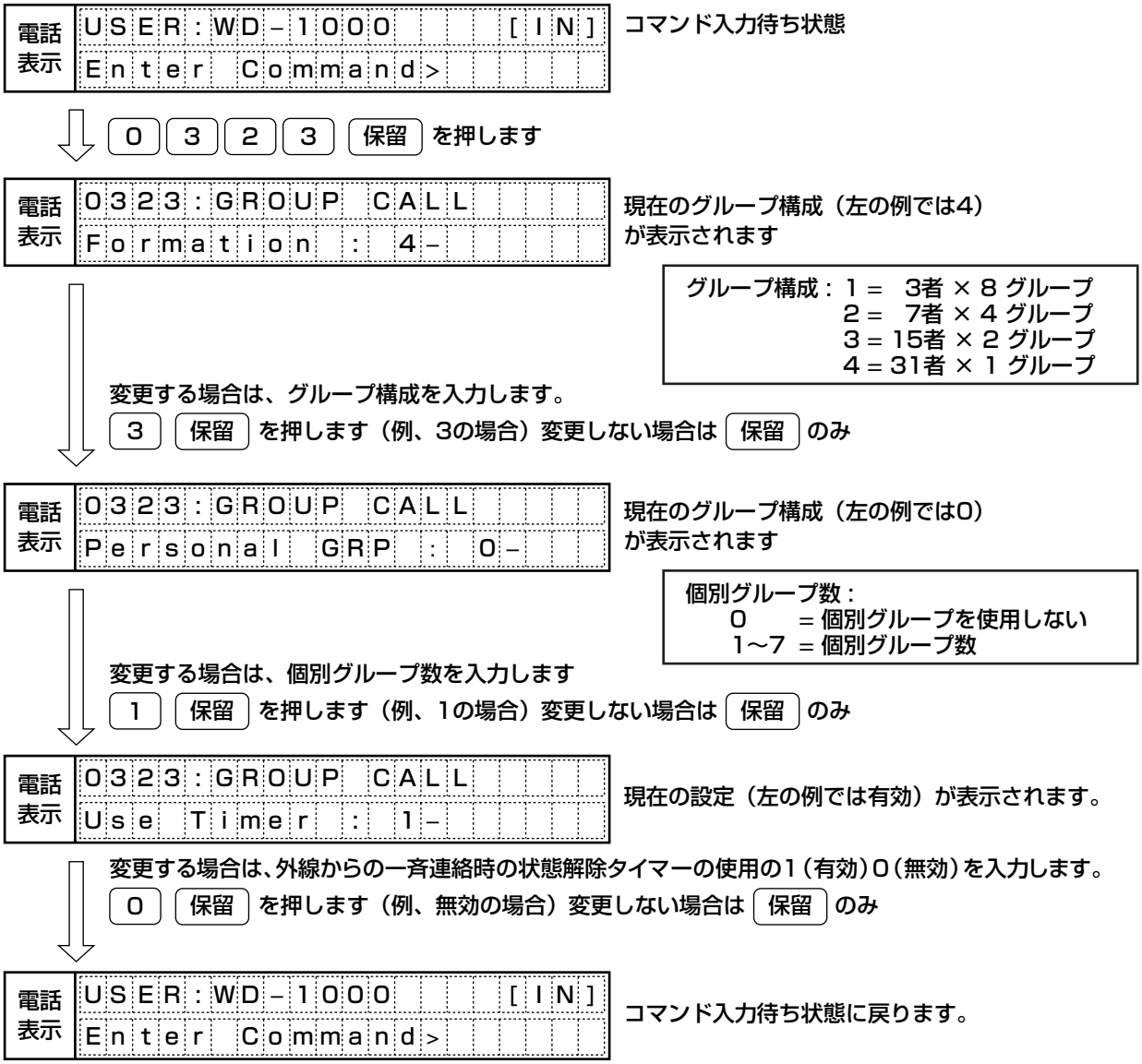
P52.「詳細説明」コマンド< 0501 >を参照してください。
P53.「詳細説明」コマンド< 0502 >を参照してください。

9. グループ数の設定

注意

この設定を変更する場合は、全ての子機の電源が OFF になっていることを確認してください。
この設定を変更した場合は、必ず P18「通話グループのメンバー登録」を設定してください。

この設定では、グループ通話のグループ数（各グループのメンバー数及び個別グループ数の設定を行います。）
多機能電話からシステムデータ登録モードに入ります。



P45.「詳細説明」コマンド< 0323 >を参照してください。

個別グループについて

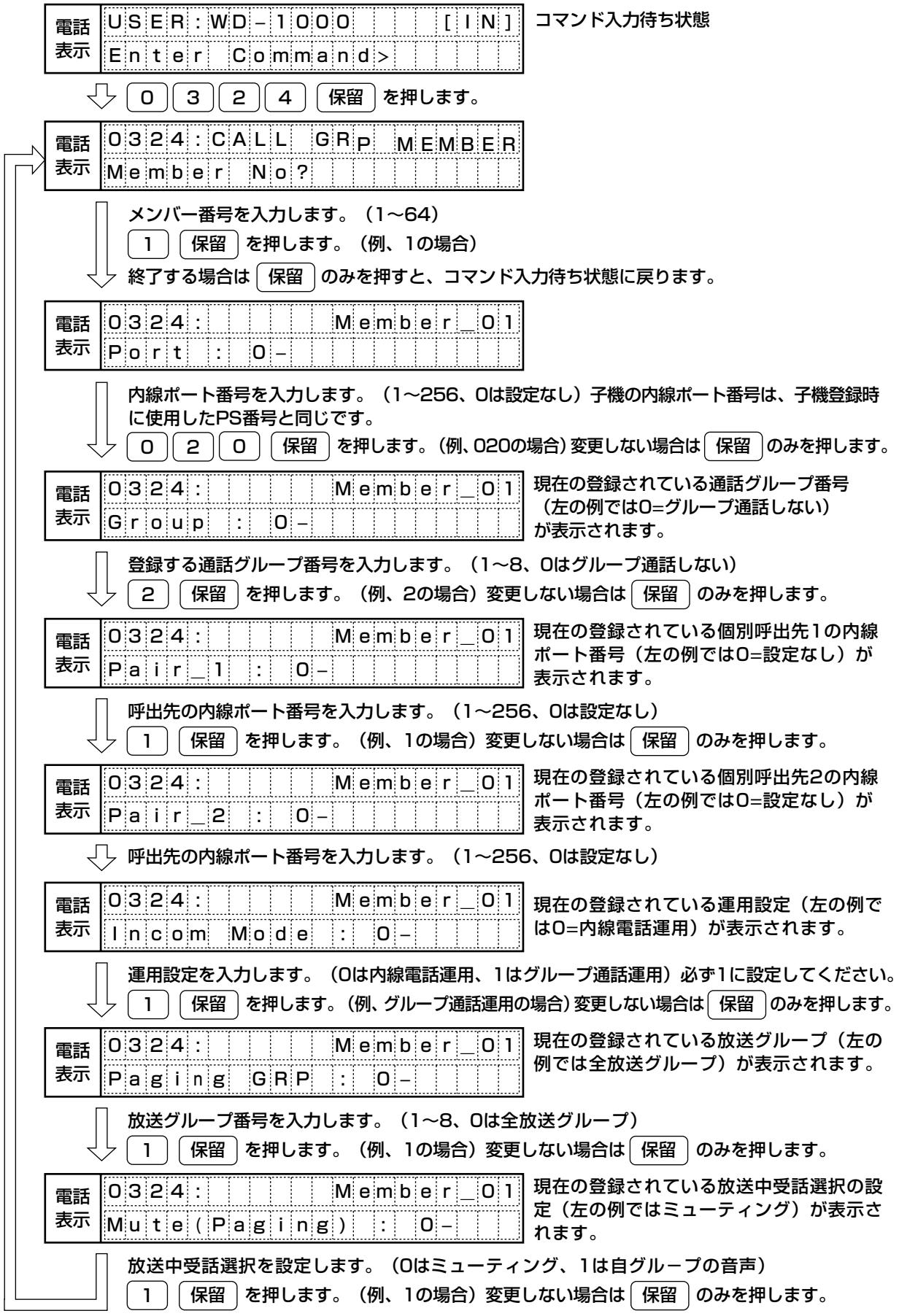
1 対 1 通話中の子機には、一斉連絡のモード切替音、音声は聞こえません。しかし、個別グループを設定することにより、その数の 1 対 1 通話に対しては、一斉連絡のモード切替音、音声がきこえるようになります。
ただし、個別グループ数には以下の制限があります。また、個別グループを設定するとそのグループの数分インカムグループ数が減少します。

グループ構成＝１：個別グループ数＝０～７
グループ構成＝２：個別グループ数＝０～３
グループ構成＝３：個別グループ数＝０～１
グループ構成＝４：個別グループ数＝０

10. 通話グループのメンバー登録

1. 子機、多機能電話機のメンバー登録

多機能電話からシステムデータ登録モードに入ります。



多機能電話機をグループ通話運用モードで使用する場合は、多機能電話機もメンバー登録しなければいけません。多機能電話機の内線ポート番号は P7.「ポート番号」を参照してください。

2. WD-AF10（放送入出力ユニット）のメンバー登録

WD-AF10、1 台に 1 ～ 3 の 3 ポートが使用でき、音声の入力、出力、入出力の設定ができます。

（1）コマンド< 0005 >を使用して、WD-AF10 が接続されている WD-MU2（電話機接続ボード）上のポート番号を設定します。

・コマンド< 0005 >：WD-MU2 端末種別設定コマンド

WD-AF10 のポート番号はそれが接続されるポート番号とは関係なくコマンド〈0005〉にて WD-AF10 に付与される機器番号（順位）の若番からかつ、WD-AF10 の回路番号の若番から順に 1.2.3.・・・と付与されます。

注意

上記 WD-AF10 に付与された機器番号（順位）はコマンド〈0004〉による端末種別自動設定を実行すると当該機器が接続されている WD-MU2 ボードの若番ポートから順番に機器番号がふり直されますので、機器番号（順位）はポートの若番順に付与する様にしてください。

（2）コマンド< 0504 >を使用して、WD-AF10 ポートの内線番号を設定します。

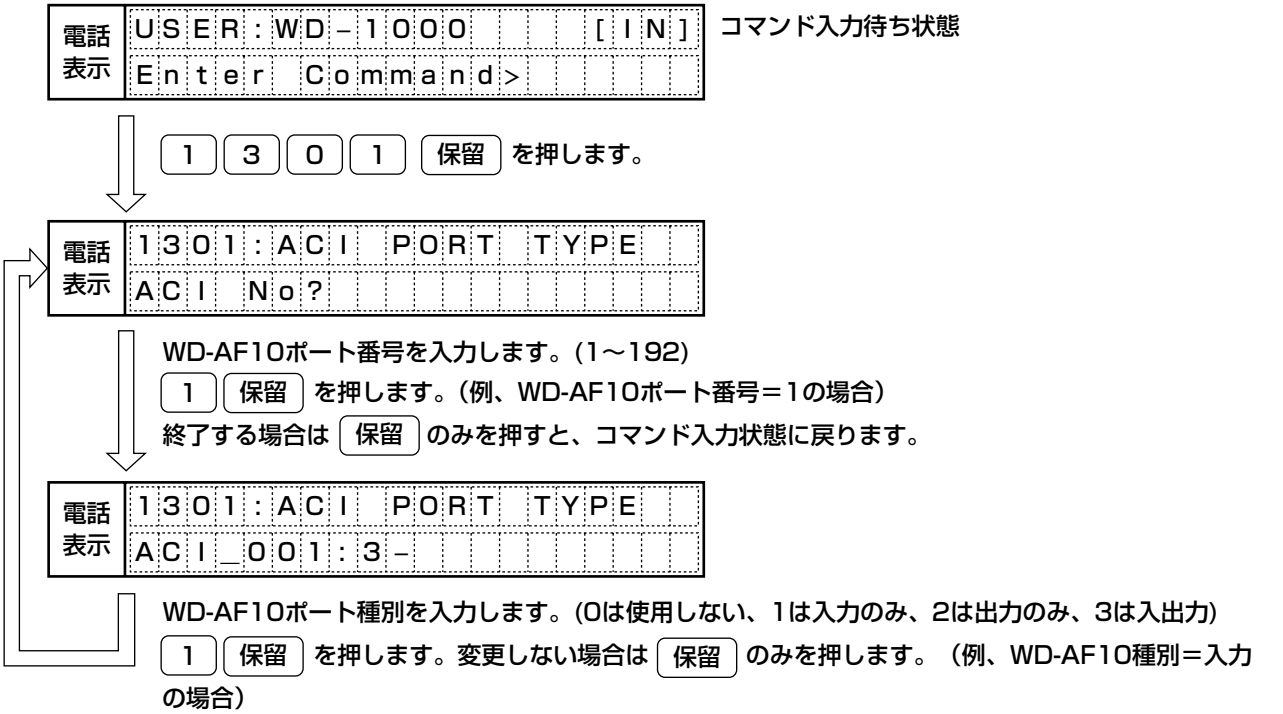
・コマンド< 0504 >：WD-AF10 の内線番号設定

内線番号設定例

WD-AF10 ポート 1 ＝ 600
WD-AF10 ポート 2 ＝ 601
WD-AF10 ポート 3 ＝ 602

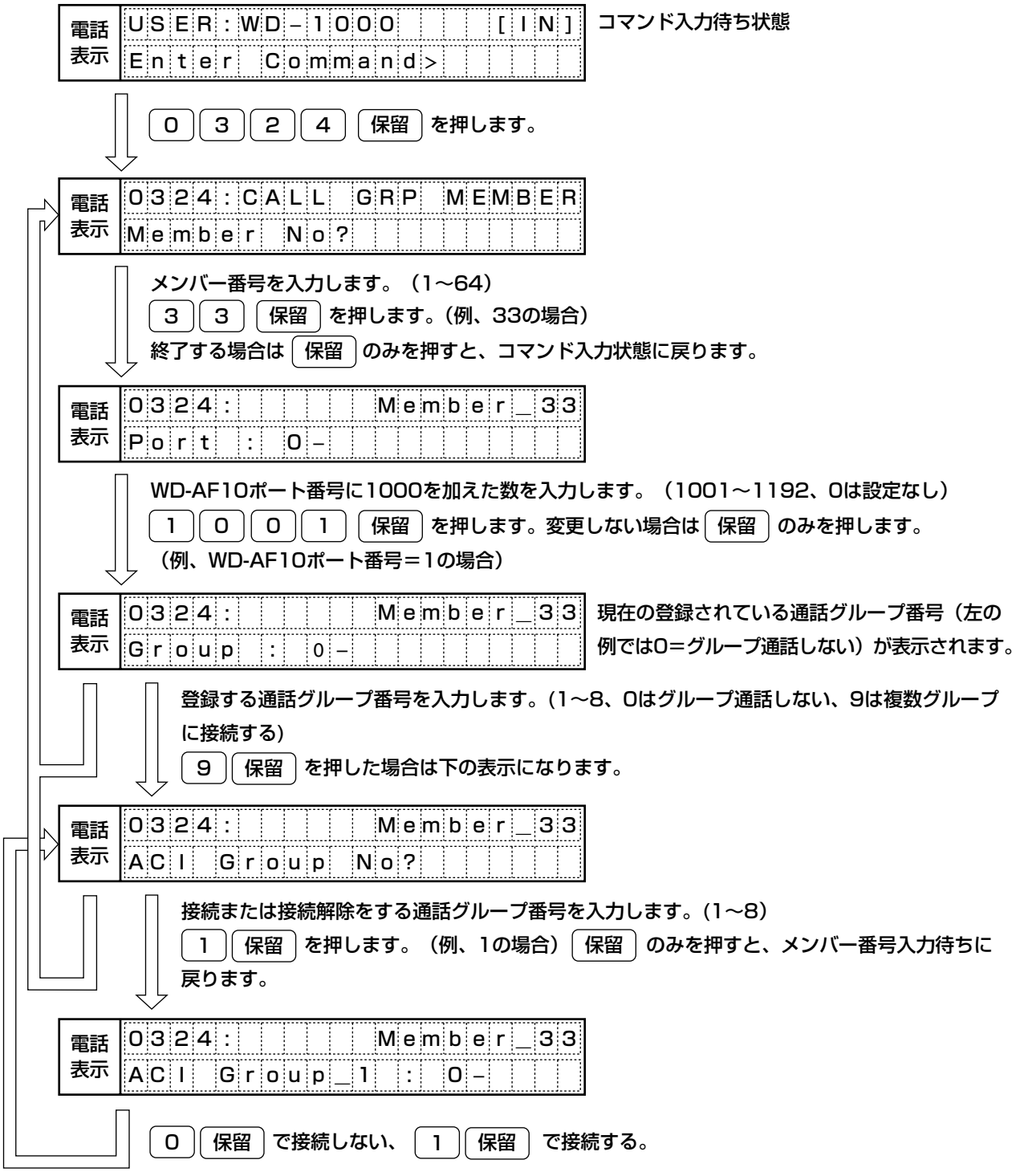
（3）メンバー登録した WD-AF10 のポートの入出力種別を設定します。

外部からの音声をグループに入れる場合は 1（入力のみ）、グループの音声を放送設備等に接続し拡声する場合は 2（出力のみ）、マイクとスピーカーをつなぐ場合は 3（入出力）を設定してください。
多機能電話機からシステムデータ登録モードに入ります。



（4）コマンド< 0324 >を使用してメンバー登録します。

多機能電話機からシステムデータ登録モードに入ります。



注意

WD-AF10 をメンバー登録する場合は、WD-AF10 を接続してください。

11．その他のグループ通話関連設定

1．子機の登録抹消

システムに登録している子機の登録抹消をする場合は、以下のコマンドを使用してください。全ての子機を一度に登録抹消する事もできます。

・コマンド< 2902 >：子機登録抹消

2．子機の内線番号

子機の内線番号は、コマンド< 0502 >で調べる事ができます。

・コマンド< 0502 >：電話機の内線番号、名称設定

3．マスターセルステーション変更

マスターセルステーションを故障などで交換する場合に、以下の手順で行ってください。

（1）全 WD-MU3（セルステーション接続ボード）の削除

コマンド< 0006 >メニューNo．2（削除）で全ての WD-MU3 を削除します。

・コマンド< 0006 >：スロットコントロールコマンド

（2）ボードの抜き取り

全 WD-MU3 上の SW1（メークビジースイッチ）を BLK 側（メークビジー）にします。

全 WD-MU3 を抜き取ります。

（3）システム ID の削除

コマンド< 0142 >でシステム ID を参照し「CLEAR」ボタンで削除します。

・コマンド< 0142 >：システム ID の参照

（4）セルステーション ID の削除

コマンド< 0143 >でセルステーション　No．1～32の全セルステーションIDを参照し、「CLEAR」ボタンで削除します。

・コマンド< 0143 >：セルステーションデータ設定

（5）子機の削除

コマンド< 2902 >で全ての子機登録を抹消します。

・コマンド< 2902 >：子機登録抹消

（6）再設定

WD-MU3 をスロットに挿入し、SW1 を RUN 側（レディ）にします。

P12.「WD-MU3 のマスター設定」、P14.「子機登録」、P16.「グループ数の設定」、P17.「通話グループのメンバー登録」と同様に行ってください。

12. システムデータのセーブ

（1）準備

CPRU ボードの FDD にデータディスクを挿入してください。

（2）セーブ

システムデータ設定モードに入り、多機能電話機の［短縮］ボタンを押してください。

多機能電話機の LCD に "Data Save?（Yes:1）" が表示されるので、多機能電話機の［1］ボタンを押し［保留］ボタンを押してください。

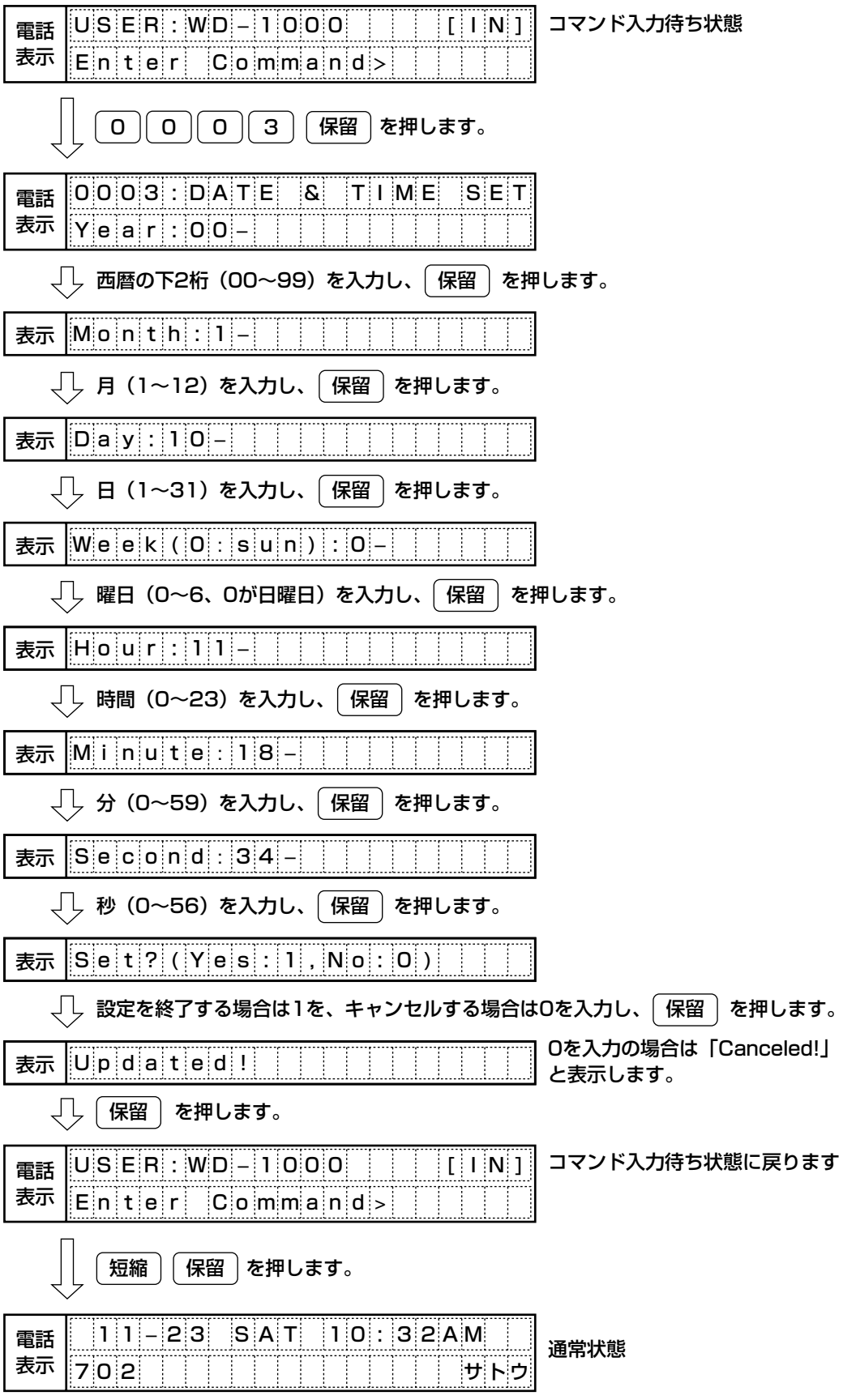
（3）終了

多機能電話機の LCD に "Data Save Complete" と表示されたら、［保留］ボタンを押してシステムデータのセーブは完了です。

13. 電話機関連設定

この設定では、多機能電話機のLCDに表示する日付、時刻の設定を行います。システムデータ登録モードに入り行います。

1. 日付と時刻の設定



2．時計表示モードの設定

以下のコマンドを使用して設定します。
表示タイプは P.33 を参照してください。
・コマンド< 0103 >：時計表示モードの設定

14．外線の設定

WD-MU5（電話回線ボード）を使用し、外線または PBX の内線に接続をおこなう場合必要な設定です。
外線ポード番号は 1 から割り当てられます。設置説明書（工事説明書）P8、「2.3 ポート番号の数え方」を参照してください。

1．一般着信の場合

（1）コマンド< 0901 >を使用して、外線タイプを設定します。

・コマンド< 0901 >：外線回路のタイプ、外線個別データの設定
ItemNo1　　：接続する外線の種類（DP10PPS、20PPS または PB）を設定してください。
ItemNo14　　：着信サービスタイプを、0=一般着信を設定してください。

（2）コマンド<0909>を使用して、着信させたいWD-MT10（多機能電話機）の内線ポート番号を着信グループに設定します。
コマンド<0910>を使用して外線ポート毎に着信させたいグループ番号を設定します。

・コマンド< 0909 >：外線の着信グループ設定
・コマンド< 0910 >：外線の着信先設定

2．DIL（ダイレクトライン）の場合

（1） コマンド<0901>を使用して、外線タイプを設定します。

・コマンド<0901>　：　外線回路のタイプ、外線個別データの設定
ItemNo1　　：　接続する外線の種類（DP10PPS、20PPSまたはPB）を設定してください。
ItemNo14　　：　着信サービスタイプを、4=DILを設定してください。

（2） コマンド<0917>を使用して、着信させたいWD-MT10または子機の内線ポート番号を設定します。

・コマンド<0917>　：　DILの着信先指定

3．DID（ダイレクトインダイヤリング）の場合

この場合は WD-MU6（トーン検出ボード）が必須となります。

（1）コマンド< 0901 >を使用して、外線タイプを設定します。

・コマンド< 0901 >：外線回路のタイプ、外線個別データの設定
ItemNo1　　：接続する外線の種類（DP10PPS、20PPS または PB）を設定してください。
ItemNo14　　：着信サービスタイプを、1=DID を設定してください。

通常、コマンド< 0901 >は ItemNo14 ～ 17 のうち 14 のみを設定します。

（2）WD-MU6に関する設定以下のコマンドです。

・コマンド< 0116 >：WD-MU6 基本設定
・コマンド< 0303 >：WD-MU6 回路ブロック設定

通常、コマンド< 0116 >< 0303 >は初期設定で使用します。設定の必要はありません。

（3）コマンド<1802>を使用してダイヤルトーンタイムオーバー、未応答、誤ダイヤル時の動作モードを設定します。また、動作モードが転送の場合の転送先はコマンド<1803>で設定します。

・コマンド< 1802 >：DID/DISA の動作モード設定
・コマンド< 1803 >：DID/DISA の転送先設定

（4）外線をグループ通話参加のみに使用する場合
グループ通話参加のみに使用し、WD-MT10から外線発信させない場合は、コマンド<0901>のItemNo.18でその外線ポートを発信不可能に設定してください。発信可能に設定されている場合、その外線ポートが使用中は外線からグループ通話参加ができません。

・コマンド< 0901 >：外線回路のタイプ、外線個別データの設定

(5) 外線からのグループ通話の終了が検出されない場合
サービス特番、またはファンクションボタンで強制切断が出来ます。ファンクションボタンを使用する場合はコマンド＜ 1006 ＞を使用して設定してください。

・コマンド＜ 1006 ＞：WD-MT10 のファンクションボタン設定

(6) 外線からサービス特番を使用せずグループ通話に参加する場合
コマンド＜1815＞を使用して、「DID/DISAグループ通話アクセス」特番（初期値は「933」）+参加グループ番号（1～8、0を設定で一斉連絡になります）を設定します。

・コマンド＜ 1815 ＞：DID/DISA 回線の自動ダイヤル設定

通常、コマンド＜ 1815 ＞は運用モードのうち、1（昼間）のみ設定します。

4. DISA（ダイレクトサービスアクセス）の場合

この場合は WD-MU6（トーン検出ボード）が必須となります。

(1) コマンド＜ 0901 ＞を使用して、外線タイプを設定します。

・コマンド＜ 0901 ＞：外線回路のタイプ、外線個別データの設定
ItemNo1　　：接続する外線の種類（DP10PPS、20PPS または PB）を設定してください。
ItemNo14　　：着信サービスタイプを、2=DISA を設定してください。

通常、コマンド＜ 0901 ＞は ItemNo14 ～ 17 のうち 14 のみを設定します。

(2) WD-MU6に関する設定以下のコマンドです。

・コマンド＜ 0116 ＞：WD-MU6 基本設定
・コマンド＜ 0303 ＞：WD-MU6 回路ブロック設定

通常、コマンド＜ 0116 ＞＜ 0303 ＞は初期設定で使用します。設定の必要はありません。

(3) コマンド＜1801＞を使用して外線からのDISAアクセス時のパスワードを設定します。

・コマンド＜ 1801 ＞：DISA パスワード設定

(4) コマンド＜1802＞を使用してダイヤルトーンタイムオーバー、未応答、誤ダイヤル時の動作モードを設定します。また、動作モードが転送の場合の転送先はコマンド＜1803＞で設定します。

・コマンド＜ 1802 ＞：DID/DISA の動作モード設定
・コマンド＜ 1803 ＞：DID/DISA の転送先設定

(5) 外線をグループ通話参加のみに使用する場合
グループ通話参加のみに使用し、WD-MT10から外線発信させない場合は、コマンド＜0901＞のItemNo.18でその外線ポートを発信不可能に設定してください。発信可能に設定されている場合、その外線ポートが使用中は外線からグループ通話参加ができません。

・コマンド＜ 0901 ＞：外線回路のタイプ、外線個別データの設定

(6) 外線からのグループ通話の終了が検出されない場合
サービス特番、またはファンクションボタンで強制切断が出来ます。ファンクションボタンを使用する場合はコマンド＜1006＞を使用して設定してください。

・コマンド＜ 1006 ＞：WD-MT10 のファンクションボタン設定

(7) 外線からサービス特番を使用せずグループ通話に参加する場合
コマンド＜1815＞を使用して、「DID/DISAグループ通話アクセス」特番（初期値は「933」）+参加グループ番号（1～8、0を設定で一斉連絡になります）を設定します。

・ コマンド＜ 1815 ＞：DID/DISA 回線の自動ダイヤル設定

通常、コマンド＜ 1815 ＞は運用モードのうち、1（昼間）のみ設定します。

5. 使用しない外線ポートの処理

外線や PBX 内線を接続していない外線ポートは、コマンド＜ 0924 ＞を使用して未使用ポートに設定してください。

・コマンド＜ 0924 ＞：外線ポートの閉塞

15. 通報及び放送関連設定

1. 定時通報および緊急一斉通報の設定

定時通報および緊急一斉通報用ポートとして、WD-AF10（放送入出力ユニット）1台に1～3の3ポートを使用できます。
どのポートにも定時通報または緊急一斉通報を割り当てる事ができます。

（1）コマンド< 0005 >を使用して、WD-AF10が接続されているWD-MU2（電話機接続ボード）上のポート番号を設定します。
・コマンド< 0005 >：WD-MU2 端末種別設定コマンド

（2）コマンド< 0504 >を使用して、WD-AF10 ポートの内線番号を設定します。
・コマンド< 0504 >：WD-AF10 の内線番号設定

内線番号設定例

WD-AF10 ポート 1 = 600
WD-AF10 ポート 2 = 601
WD-AF10 ポート 3 = 602

（3）コマンド< 1301 >を使用して、WD-AF10 ポート 1 ～ 3 のポートタイプを「入力」に設定します。
・コマンド< 1301 > ： WD-AF10 ポートタイプの設定

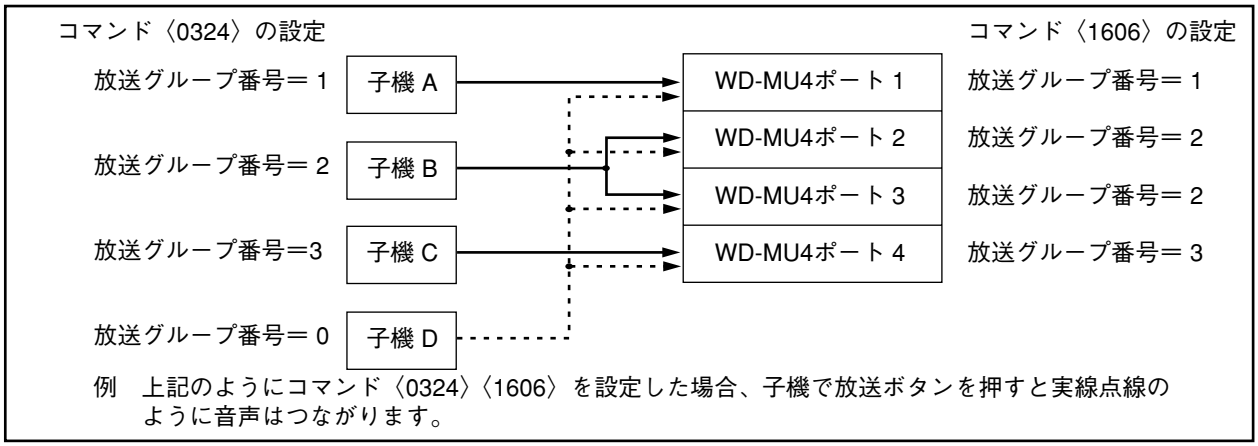
コマンド< 0304 >を使用して、通報の起動センサーの各種設定を行います。設定する項目は「定時／緊急一斉通報設定」「WD-AF10 ポート番号」「定時通報時の通報グループ設定」です。
・コマンド< 0304 > ： WD-MU4（放送接続ボード）センサーポート設定

コマンド< 0305 >を使用して、通報の起動センサーの接点種別（メーク／ブレーク）を変更します。
初期値はメーク動作になっています。
・コマンド< 0305 > ： WD-MU4 センサーの接点種別設定

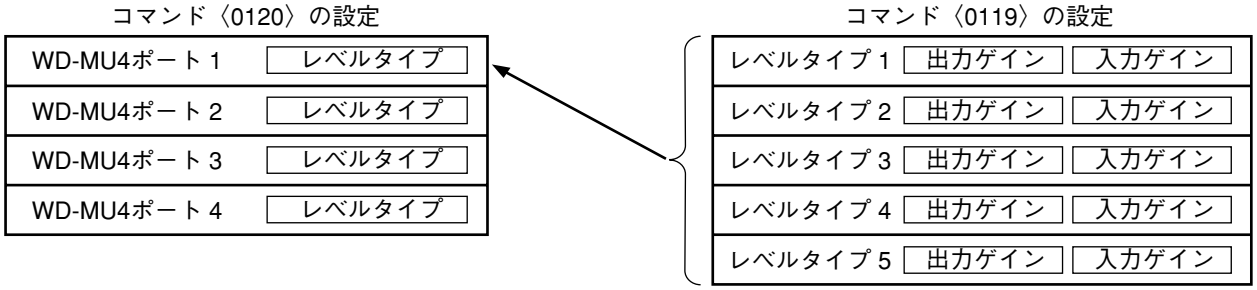
2. 放送の設定

（1）WD-MU4（放送接続ボード）上のスライドスイッチを、「PG」側にします。

（2）10-1 項、「子機、多機能電話機のメンバー登録」コマンド< 0324 >で設定した放送グループ番号と WD-MU4 ポートの関係を以下のコマンドで設定します。
・コマンド< 1606 > ： 放送グループの設定



（3）以下の 2 つのコマンドを使用して、WD-MU4 ポートの入出力レベルを設定してください。
・コマンド< 0119 > ： WD-MU4 の入出力レベル設定
・コマンド< 0120 > ： WD-MU4 の入出力レベルのタイプ設定



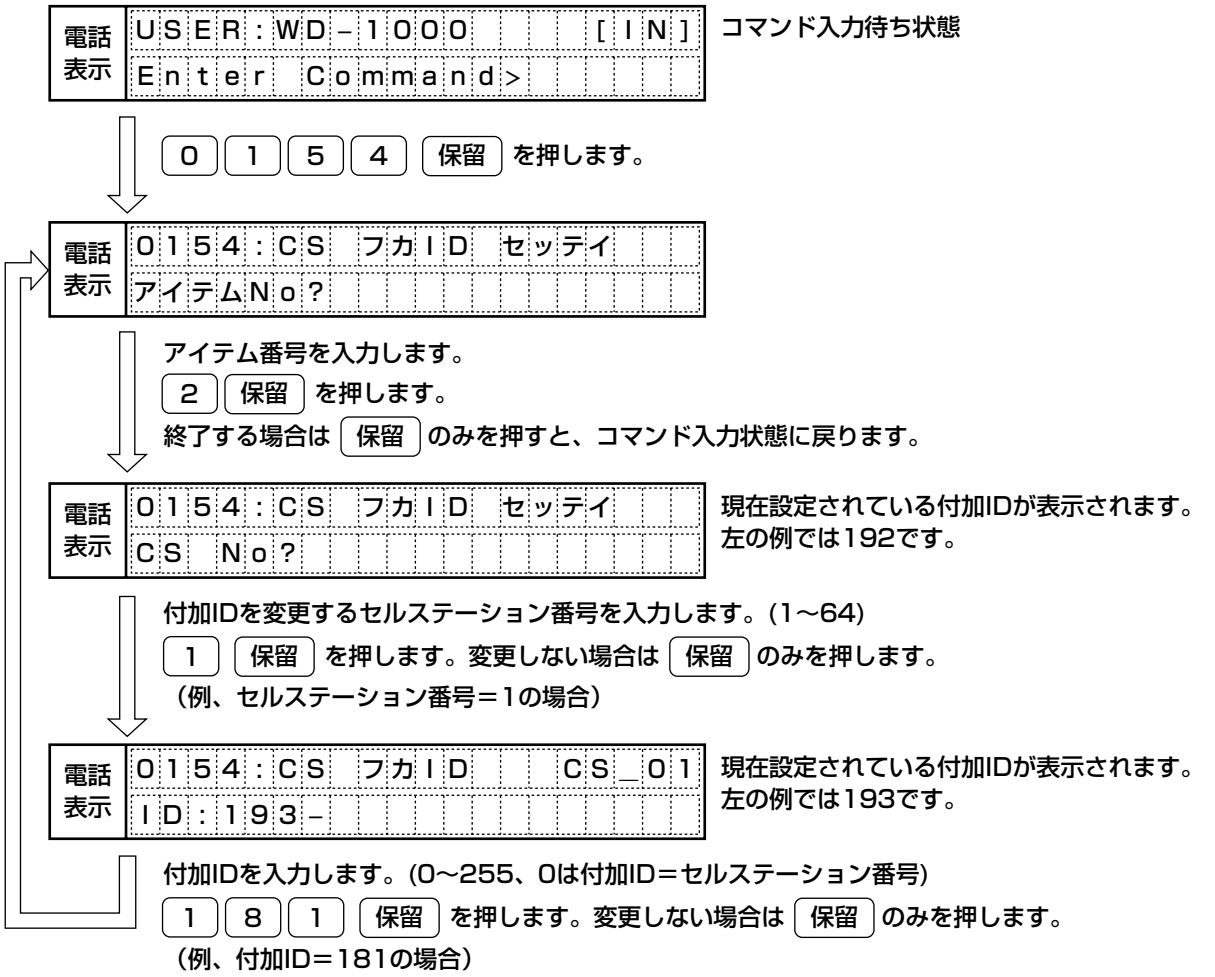
レベルタイプに入出力ゲインの実際の値を設定し、WD-MU4 ポート毎にレベルタイプ設定する。

（4）放送中の受話選択はコマンド< 0324 >で子機毎に設定してください。

16. セルステーションの付加 ID 設定

設置環境によっては、別のPHSシステムとの混信によるノイズが発生する場合があります。この場合は周囲の付加 ID を測定器により調査し同じ付加 ID にならないように以下の方法で変更してください。

多機能電話機からシステムデータ登録モードに入ります。



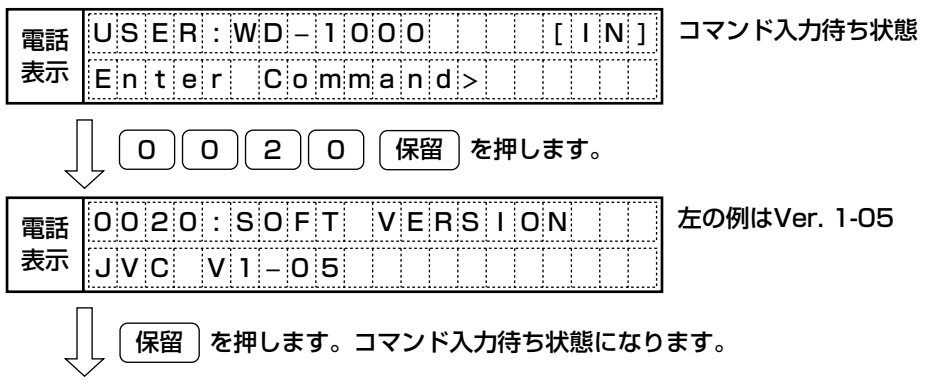
17. システムソフトのバージョンアップ

新しい機能が追加になったときなど、システムソフトのバージョンアップが必要になる場合があります。
バーションアップは P10.「システムソフトのロード」と同様に行ってください。

18. システムソフトのバージョン番号確認

多機能電話機から次のキー操作を行なうことにより、現在のシステムソフトのバージョン番号を確認できます。

システムデータ登録モードに入ります。



19. システムデータの再ロード

1. システム全体を立ち上げ直す場合
   P11.「システムデータのロード」と同様に行ってください。
2. システムデータのみをデータディスクに保存されているデータと入れ換える場合
   システムデータ登録モードに入ります。

ロード終了後は、データディスクを取出してCPRUのシステムリセット用スイッチを上側に押し上げてリセットしてください。

20. 動作の確認

全ての設定を終了した後、以下の項目の確認を行ってください。

●必ず確認すること
- ○子機の電源を入れて、グループ通話ができること。
- ○グループ数が２以上の場合は、グループが分かれてグループ通話ができること。
- ○一斉ボタンを押して全員にモード切替音、音声が聞こえること。
- ○個別呼出１、２ボタンを押して、設定した相手が呼び出せること。
- ○個別呼出をされた子機の、応答ボタンを押して１対１通話ができること。

●外線を使用する場合、確認すること
- ○外線発信ができること。
- ○外線からの着信ができること。

●通報を使用する場合、確認すること
- ○定時通報が設定したグループの子機に聞こえること。
- ○緊急一斉通報が全ての子機に聞こえること。

●放送を使用する場合、確認すること
- ○放送ボタンを押して、放送ができること。

コマンド説明

1. コマンド一覧

設定するときに必要なコマンドは下表の通りです。

○は必ず設定してください。△はオプション使用時に設定してください。

	コマンド番号	コマンド名称	ページ
○	0003	日付と時刻の設定コマンド	28
	0004	端末自動設定コマンド	28
△	0005	WD-MU2（電話器接続ボード）端末種別設定コマンド	29
	0006	スロットコントロールコマンド	29
○	0010	アラームセットアップコマンド	30
	0020	システムソフトのバージョン表示	32
	0023	セルステーションファームのバージョン表示	32
○	0103	時計表示モードの設定	33
	0116	WD-MU6（トーン検出ユニット）基本設定	34
	0119	WD-MU4（放送接続ボード）の出力レベルの設定	35
	0120	WD-MU4（放送接続ボード）の出力レベルのタイプ設定	36
	0142	システム ID の参照	37
	0143	セルステーションデータの参照	38
	0145	セルステーションのゾーン設定	39
	0146	セルステーションエリア情報の設定	39
	0147	セルステーション運用モードの設定	40
○	0150	セルステーションのソフトダウンロード	40
	0154	セルステーション付加 ID 設定	41
	0303	WD-MU6（トーン検出ユニット）回路ブロック設定	43
△	0304	WD-MU4（放送接続ボード）センサーポート設定	44
△	0305	WD-MU4（放送接続ボード）センサーの接点種別設定	45
○	0318	WD-MU3（セルステーション接続ボード）運用モード設定	45
○	0323	グループ数の設定	46
○	0324	通話グループのメンバー登録	47
	0401	テナント毎の機能設定	49
	0405	システムタイマー設定 1	50
	0414	システムタイマー設定 2	51
	0501	番号計画	52
○	0502	電話機の内線番号、名称設定	53
△	0504	WD-AF10 の内線番号設定	53
	0511	サービス特番 1	54
	0514	サービス特番 2	55
	0701	発着信規制クラスの設定	56
△	0901	外線回路のタイプ、外線個別データ設定	57
	0903	外線の名称設定	58
△	0907	電話機に対しての外線ルート設定	59
△	0909	外線の着信グループ設定	60
△	0910	外線の着信先設定	60
△	0917	DIL の着信先指定	61
△	0924	外線ポートの閉塞	61
	1002	電話機のテナント設定	62
	1004	電話機の発信規制クラス設定	62
	1006	WD-MT10（多機能電話機）のファンクションボタン設定	63
△	1301	WD-AF10（放送入出力ユニット）ポートタイプの設定	64
△	1606	放送グループの設定	64
△	1801	DISA パスワード設定	65
△	1802	DID/DISA の動作モード設定	65
△	1803	DID/DISA の転送先設定	66
△	1815	DID/DISA 回線の自動ダイヤル設定	66
○	2901	子機登録	67
	2902	子機登録抹消	67

2. 詳細説明

コマンドの詳細説明は次ページ以降を参照してください。

コマンド番号	0003	
コマンド名称	システムソフトのバージョン表示	

説明

このコマンドは、システムの日付と時刻の設定に使用します。

入力データ

Year	：西暦の下2桁を入力（0～99）
Month	：月を入力（1～12）
Day	：日を入力（1～31）
Week	：曜日を入力（0～6） 0＝日曜日、1＝月曜日、2＝火曜日、3＝水曜日、 4＝木曜日、5＝金曜日、6＝土曜日
Hour	：24時間表示で時間を入力（0～23）
Minute	：分を入力（0～59）
Second	：秒を入力（0～59）

全て入力が終了すると「Set?(1 : Yes、0 : No)」と表示されます。
[1] ボタンを押し、[保留] ボタンを押すと「Updated!」と表示され、もう一度［保留］ボタンを押すと入力した日付、時間がセットされ計時が開始します。

初期値

なし

備考／メモ

コマンド番号	0004	
コマンド名称	端末種別自動設定コマンド	

説明

このコマンドはWD-MU2（電話機接続ボード）の端末種別を自動で設定します。
自動設定される端末種別はコマンド〈0005〉の端末種別と同じです。

備考／メモ

コマンド番号	0005	
コマンド名称	WD-MU2（電話器接続ボード）端末種別設定コマンド	
説明	このコマンドは、WD-MU2 の端末種別を内線ポート毎に個別に設定します。 WD-MU2 の移動時、WD-AF10（放送入出力ユニット）の追加時等に個別に端末種別を変更する場合に使用します。	
入力データ	内線ポート番号（STA No.）　：　1 ～ 256 端末種別（Type）　：0 ＝設定無し 1 ＝多機能電話器、BLF パネル 2 ＝未使用 3 ＝未使用 4 ＝未使用 5 ＝ WD-AF10 6 ＝未使用 7 ＝未使用 8 ＝未使用 9 ＝ PS 10 ＝未使用 順位（Order）　：1 ～ 256	
初期値		
備考／メモ	起動時には、WD-MU2 の「端末種別」は 1（多機能電話機）が設定されます。 「順位」は WD-AF10 に設定される機器番号です。装置 1 台ずつに連番で付与します。 「端末種別」が 9（PS）の場合は、参照のみが可能であり入力する事はできません。 「端末種別」が 9（PS）の場合は、「順位」には PS 番号が表示されます。	

コマンド番号	0006	
コマンド名称	スロットコントロールコマンド	
説明	このコマンドは、スロットに挿入してあるユニットの閉塞、削除に使用します。	
入力データ	メニュー No.（Menu No.）：1 ＝閉塞 2 ＝削除 スロット No.（Target Slot）：1 ～ 25	
初期値	なし	
備考／メモ	メニュー No. 1（閉塞）は、そのスロットのユニット上のメイクビジースイッチを BLK 側（メイクビジー）にした場合と同じです。閉塞状態になるとユニット上の PLT ランプは消灯します。 メニュー No. 2（削除）は、挿入してあるユニットの種別を変更する場合、またはユニットの収容位置を変更する場合（設定ポートの内容をそのままで移動）に実施します。	

コマンド番号	0010	1/2
コマンド名称	アラームセットアップコマンド	

説明

このコマンドは、アラーム発生時に点灯するランプを設定します。
アラームランプは以下の様になってます。
・CPRU　　：MAJ、MIN、ALM1、ALM2、ALM3、ALM4、ALM5
・キャビネット ：MAJ、MIN

注意

このコマンドで設定後は、電源スイッチを OFF にし、再び ON にしてください。

入力データ

アラーム No.（Alarm No.）: 100 ～ 139
タイプデータ（Type）　: 0 ＝設定無し
　1 ＝ MAJ ランプ点灯
　2 ＝ MIN ランプ点灯
レベルデータ（Level）　: 0 ＝設定なし
　1 ＝ ALM1 ランプ点灯
　2 ＝ ALM2 ランプ点灯
　3 ＝ ALM3 ランプ点灯
　4 ＝ ALM4 ランプ点灯
　5 ＝ ALM5 ランプ点灯

初期値

アラームNo.	タイプデータ	レベルデータ	備　考
100	2（MIN）	0	ユニット初期化エラー
101	2（MIN）	0	ユニット初期テストエラー
102	2（MIN）	0	ユニット挿抜エラー
103	2（MIN）	0	CPRUと他のユニット間通信エラー
104	2（MIN）	0	ユニットプログラムダウンロードエラー
105	2（MIN）	1（ALM1）	ループバックテストエラー
106	2（MIN）	0	端末初期化エラー
107	0	0	端末接続エラー
108	0	0	ブロッキング
109	1（MAJ）	2（ALM2）	停電
110	1（MAJ）	3（ALM3）	メモリバックアップ電池エラー
111	1（MAJ）	4（ALM4）	未使用
113	0	0	IFRリリースエラー
128	2（MIN）	0	未使用
135	0	0	CSエラー通知
136	0	0	CS伝送エラー

アラームNo.112、114～127、129～134、137～139は空き

コマンド番号	0010	2/2
コマンド名称	アラームセットアップコマンド	

備考／メモ

アラームNo.	要因および現象
100	ユニットの初期化が出来ません。初期化の失敗か、またはユニット自体が壊れている可能性があります。
101	ユニット内での初期テストにエラーが発生しました。初期テストの失敗か、またはユニット自体が壊れている可能性があります。
102	ユニットが正規の手順を踏まずに抜かれました。
103	ユニットの通信時にエラーが発生しました。ユニットが壊れている可能性があります。
104	ユニットがブロック状態、またはシステムディスクにユニットプログラムが存在しない ためにユニットプログラムをダウンロードできません。
105	ユニット内のテスト対象ポートが壊れている可能性があります。
106	端末の初期化に失敗、または端末が壊れている可能性があります。
107	端末との通信が正常に行なえません。端末または電話機接続ボードが壊れている可能性 があります。
108	・WD-MU2（電話機接続ボード）の場合 端末からのブロック検出、端末の接続が外された、配線が切れた、または電話機接続ボードが壊れた可能性があります。 ・WD-MU3（セルステーション接続ボード）の場合 セルステーションの接続が外された、または配線が切れた可能性があります。 セルステーションが接続されていない場合は、エラーと復旧が数回発生しますが、この場合は異常ではないので無視してください。 セルステーション関連の特定のシステムデータを変更した場合や、セルステーションの異常でセルステーションにリセットをかけた場合も発生します。
109	システムの電源が壊れた、または商用電源が止まりました。
110	CPRU上のメモリバックアップ電池が消耗した、または外れています。
111	未使用
113	ユニットの通話時にエラーが発生しました。ユニットが壊れている可能性があります。
128	未使用
135	セルステーション内でエラーが発生しました。
136	セルステーションからの応答がなくなりました。

コマンド番号	0020	
コマンド名称	システムソフトのバージョン表示	

説明

このコマンドはシステムソフトのバージョンを表示します。
以下のように表示されます。

電話表示	0020:SOFT VERSION
	JVC V1-05

備考／メモ

コマンド番号	0023	V1-03 以降
コマンド名称	セルステーションファームのバージョン表示	

説明

このコマンドはシステムソフトに入っているセルステーションファームのバージョンを表示します。
以下のように表示されます。

電話表示	0023:CS ﾌｧｰﾑ ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ
	Ver6.20 1999/05/25

備考／メモ

コマンド番号	0103	
コマンド名称	時計表示モードの設定	

説明

このコマンドは、日付と時刻の表示モードを設定します。

入力データ

タイプNo.（Type）: 1～8
表示タイプは、次の通りです。

タイプ 1 =	DD MMM WWW hh:mmAP	12時間表示
2 =	hh:mmAP MMM DD WWW	12時間表示
3 =	MM–DD WWW hh: mmAP	12時間表示
4 =	hh:mmAP WWW DD MMM	12時間表示
5 =	DD MMM WWW hh:mm	24時間表示
6 =	hh:mm MMM DD WWW	24時間表示
7 =	MM–DD WWW hh:mm	24時間表示
8 =	hh:mm WWW DD MMM	24時間表示

MM = 月 （例）“1”、“10”
MMM = 月（英語表記） （例）“JAN”
DD = 日 （例）“1”、“31”
WWW = 曜日 （例）“MON”
AP = 午前／午後
hh = 時 （例）“6”、“18”
mm = 分 （例）“05”、“30”

初期値

タイプNo. : 3

備考／メモ

コマンド番号	0116	
コマンド名称	WD-MU6（トーン検出ユニット）基本設定	

説明

このコマンドは、WD-MT10 のトーン検出レベル等を設定します。
通常は初期値のままで使用します。

入力データ

項　目	設　定　内　容	設　定　値	初期値
1	DTMFオン信号検出時間	1～255＝20～5100 ms	1
2	DTMFオフ信号検出時間	1～255＝20～5100 ms	1
3	最大検出レベル（DTMF外線）	1～6＝－4～－9 dBm	1
4	最大検出レベル（DTMF内線）	1～6＝＋4～－1 dBm	5
5	最小検出レベル（DTMF外線）	1～16＝－36～－59 dBm	6
6	最小検出レベル（DTMF内線）	1～16＝－28～－51 dBm	1
7	ツイストレベル（DTMF外線）	1～6＝±5～±10 dB	6
8	ツイストレベル（DTMF内線）	1～6＝±5～±10 dB	6
9	ガード時間（DTMF外線）	1～8＝10～38 ms（4 ms刻み）	6
10	ガード時間（DTMF内線）	1～8＝10～38 ms（4 ms刻み）	6
11	最小検出レベル（DT外線）	1～9＝－9～－49 dBm（5 dBm刻み）	7
12	最小検出レベル（DT内線）	1～9＝－1～－41 dBm（5 dBm刻み）	4
13	DT オン検出時間	1～255＝20～5100 ms	10
14	DT オフ検出時間	1～255＝20～5100 ms	8
15	帯域外信号除去比（DT外線）	1＝50 % 2＝25 %	1
16	帯域外信号除去比（DT内線）	1＝50 % 2＝25 %	1
17	S/N比（DT外線）	1～3＝－15～－25 dB（5 dB刻み）	2
18	S/N比（DT内線）	1～3＝－15～－25 dB（5 dB刻み）	2
19	トーン1周期最小時間	0～255＝20～5100 ms	132, 44, 42
20	トーン1周期最大時間	0～255＝20～5100 ms	167, 56, 57
21	トーンオン最小時間A	0～255＝20～5100 ms	42, 20, 3
22	トーンオン最小時間B	0～255＝20～5100 ms	0, 0, 0
23	トーンオン最大時間A	0～255＝20～5100 ms	72, 29, 8
24	トーンオン最大時間B	0～255＝20～5100 ms	0, 0, 0
25	トーンオフ最小時間A	0～255＝20～5100 ms	87, 20, 3
26	トーンオフ最小時間B	0～255＝20～5100 ms	0, 0, 0
27	トーンオフ最大時間A	0～255＝20～5100 ms	112, 29, 8
28	トーンオフ最大時間B	0～255＝20～5100 ms	0, 0, 0
29	トーンオンカウント回数A	0～255	1, 1, 4
30	トーンオンカウント回数B	0～255	0, 0, 0
31	トーンオフカウント回数A	0～255	1, 1, 4
32	トーンオフカウント回数B	0～255	0, 0, 0

項目 19 ～ 32 はトーンタイプ毎に設定します。
トーンタイプ：1＝RBT（リングバックトーン）
2＝BT（ビジートーン）
3＝SDT（セカンドダイヤルトーン）

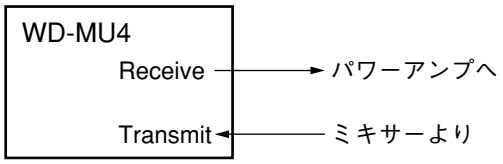
項目 19 ～ 32 の初期値は左からトーンタイプ RBT、BT、SDT の順です。

コマンド番号	0119	
コマンド名称	WD-MU4（放送接続ボード）の出力レベル設定	

説明

このコマンドは、放送の出力レベルを設定します。
システムには、5つの入出力レベルタイプがあります。

このコマンドの設定値タイプ1～5が、コマンド＜0120＞「WD-MU4の入出力レベルのタイプ設定」で参照されます。



入力データ

タイプNo.　　：1～5
出力／入力ゲイン：
（Transmit）
（Receive）

設定値	ゲイン
0	0 dB
1	+ 0.5 dB
2	+ 1.0 dB
3	+ 1.5 dB
4	+ 2.0 dB
⋮	⋮
30	+15.0 dB
31	+15.5 dB

設定値	ゲイン
32	0 dB
33	− 0.5 dB
34	− 1.0 dB
35	− 1.5 dB
36	− 2.0 dB
⋮	⋮
62	−15.0 dB
63	−15.5 dB

初期値

設定値	出力ゲイン Transmit	入力ゲイン Receive
1	0（　0 dB）	0（　0 dB）
2	42（−5.0 dB）	42（−5.0 dB）
3	38（−3.0 dB）	38（−3.0 dB）
4	6（+3.0 dB）	6（+3.0 dB）
5	10（+5.0 dB）	10（+5.0 dB）

備考／メモ

コマンド番号	0120	
コマンド名称	WD-MU4（放送接続ボード）の出力レベルのタイプ設定	

説明

このコマンドは、放送の出力レベルのタイプを設定します。

このコマンドの設定値タイプ 1 ～ 5 は、コマンド＜ 0119 ＞「WD-MU4 の出力レベル設定」で設定します。

入力データ

WD-MU4 ポート番号（PGDU Port No.）: 1 ～ 8
タイプ No.（Type） : 1 ～ 5

初期値

全 WD-MU4 ポート　　: タイプ No. ＝ 1（タイプ 1）

備考／メモ

ドアホンとスピーカーの切り替えは WD-MU4 上のスライドスイッチで行います。設置説明書（工事説明書）の P28 を参照してください。

コマンド番号	0142	
コマンド名称	システムIDの参照	

説明

このコマンドは、システムにおけるPHSのシステムIDを参照します。また、どこのWD-MU3（セルステーション接続ボード）に接続されているかを確認する事ができます。

参照データ

セルステーション番号（CS No.）：1～64
システムID（SYSTEM ID）　：000000000～536870911
（10進数表示、データの入力不可）
セルステーションID（HEX）（ID）：0～1FFFFFFF（H）
（16進数表示、データの入力不可）
セルステーションのソフトウェアバージョン（Version）
：0、00～F、FF（データの入力不可）
スロットNo.／回線番号（Slot/Circuit）
：00～25/0～2
（00、0＝設定なし、データの入力不可）

初期値

システムID　：000000000
セルステーションID（HEX）　：（設定なし）
セルステーションのソフトウェアバージョン（Version）
：0、00（セルステーション非稼働）
スロットNo.／回線番号　：00（設定なし）～0（設定なし）

備考／メモ

システムIDは29ビットです。
このコマンドではデータの入力はできません。ただし、システムID参照中に「CLEAR」ボタンを押す事により、システムIDのシステムへの登録を解除する事はできます。

コマンド番号	0143	
コマンド名称	セルステーションデータの参照	

説明

このコマンドは、システムにおけるPHSのシステムIDを参照します。また、どこのWD-MU3（CS接続ボード）に接続されているかを確認する事ができます。

入力データ

セルステーション番号（CS No.）：1～64
セルステーションID（CS ID）　：000000000～536870911
（10進数表示、データの入力不可）
セルステーションID（HEX）（CS-ID [HEX]）
：0～1FFFFFFF（H）
（16進数表示、データの入力不可）
セルステーション名称（Name）：カタカナ、英数字（最大10文字まで）
1台のセルステーションに位置登録可能なPSの台数（Dch Value）
：0＝位置登録なし
1～8
Nオフセット値（N offset）　：7、9、11、13、15のいずれか
WD-MU3収容（Slot/Circuit）　：00～25/0～2
スロットNo.／回線番号　（データの入力不可）
セルステーションのソフトウエアバージョン（CS Version）
：0.00～F.FF
（0.00＝セルステーション非稼働、データ入力不可）

初期値

セルステーションID　：000000000
セルステーションID（HEX）　：（設定なし）
1台のセルステーションに位置登録可能なPSの台数　：8
WD-MU3収容　：00（設定なし）／0（設定なし）
スロットNo.／回線番号
セルステーションのソフトウエアバージョン　：0.00（セルステーション非稼働）

セルステーション番号	セルステーション名称	Nオフセット値	セルステーション番号	セルステーション名称	Nオフセット値
1	CS 01	7	33	CS 33	7
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
16	CS 16	7	48	CS 48	7
17	CS 17	15	49	CS 49	15
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
32	CS 32	15	64	CS 64	15

備考／メモ

セルステーションIDは29ビットです。
セルステーションIDはデータの入力は出来ません。ただし、セルステーションID表示中に「CLEAR」ボタンを押す事により、セルステーションIDのシステムへの登録を解除する事はできます。

コマンド番号	0145	
コマンド名称	セルステーションのゾーン設定	
説明	このコマンドは、ゾーン内で隣接するセルステーションを設定します。 ゾーンは 64 まで指定でき、それぞれのゾーンに最大 10 台のセルステーションを設定する事ができます。	
入力データ	セルステーション番号（CS No.）：1 ～ 64 ゾーン番号（Zone No.）　　：1 ～ 64	
初期値	全セルステーション番号 ：セルステーションの設定＝ 0（設定なし）	
備考／メモ	1 つのゾーンに対し、「セルステーションの設定」＝ 1（設定あり）と設定出来るセルステーション番号は最大 10 個までです。	

コマンド番号	0146	
コマンド名称	セルステーションエリア情報の設定	
説明	このコマンドは、セルステーションのエリア情報の書き込み、およびデータの設定を行います。 注意 **このコマンドで設定後は、電源スイッチを OFF にし、再び ON にしてください。** **本コマンドは、 P6.「システムデータ登録モード」でモードに入る時のパスワードが違います。本コマンドを使用する場合はサービス部門にお問い合わせください。**	
入力データ	セルステーション番号（CS No.）: 1 ～ 64 アドレス（Address）　　: 65 ＝待ち受け選択レベル 66 ＝待ち受け保持レベル 67 ＝ハンドオーバー処理レベル 68 ＝ハンドオーバー先選択レベル 69 ＝ TCH 切替型ハンドオーバーレベル 70 ＝チャンネル切替 FER エリア情報（Data）　　: 44 ～ 114 ＝ 10 ～ 80 dB μ V （アドレス＝ 65 ～ 69 に適用） 0 ～ 241 （アドレス＝ 70 に適用）	
初期値	全セルステーション番号	
備考／メモ	アドレス 70 のエリア情報が 241 の場合は PS 起動 TCH 切替えは行わない。	

アドレス	エリア情報	しきい値
65	76	42 dBμV
66	70	36 dBμV
67	64	30 dBμV
68	76	42 dBμV
69	44	10 dBμV
70	120	120 スロット

アドレス 65 ～ 69 のエリア情報は、しきい値に 34 を足した値を設定します。

V1-02 以前ではアドレス 67 の初期値はエリア情報＝ 70、しきい値＝ 36dBμV です。

コマンド番号	0147	
コマンド名称	セルステーション運用モードの設定	

説明

このコマンドは、本システムに収容する子機のモードと、通信エラー時の音声処理方法を設定します。
このコマンドを実行するときは全ての子機の電源を切っておいてください。

入力データ

Item No.	項　　目	設　定　値（Mode）
1	混在モード設定	0＝KPS/SPS混在モード 1＝SPSモード
2	音声品質制御	0＝CRCエラー時音声品質制御処理使用 1＝CRCエラー時音声ミュート処理使用

初期値

Item No.	設　定　値
1	0 : KPS/SPS混在モード
2	1 : CRCエラー時音声ミュート処理使用

備考／メモ

SPS（汎用 PHS 端末）
KPS（特殊 PHS 端末）
Item No 1 は 0 にしておいてください。1 にすると動作しない場合があります。
本コマンドでデータを変更すると全セルステーションがリセットされます。

コマンド番号	0150	
コマンド名称	セルステーションのソフトダウンロード	

説明

このコマンドは、セルステーションに組み込まれているソフトを入れ換えて、最新のバージョンにしたり、前の状態に戻すために使用します。

入力

セルステーション No.（CS No）：0 ～ 64（0 ー全セルステーション）
モード　　：1 ーダウンロード（FD 内のソフトをセルステーションに書き込み）
　　2 ーリストア（ダウンロード直前に戻す）

備考／メモ

ダウンロードには 1 台当たり約 1.5 分かかります。
このコマンド終了後システムデータ登録モードから出ると、全セルステーションがリセットされます。

コマンド番号	0154	V1-04以降	1/2
コマンド名称	セルステーション付加ID設定		

説明

このコマンドは、セルステーション毎に付加IDの下位8ビットの設定を行います。付加IDをシステム割当に設定した場合は、付加IDはセルステーション番号となります。また、「付加ID連続割当実行」を実行することによりセルステーション1から64までの付加IDを任意の開始付加IDから連続して割当てることが出来ます。

入力データ

Item No.	項　　目	Data
1	付加ID割当ての重複設定	0＝許可 1＝禁止
2	セルステーション毎の 付加ID	セルステーション番号：1～64 （CS No.） 付加ID　　：0～255 （0の場合、付加ID＝セルステーション番号）
3	付加ID連続割当実行	実行モード　：　1＝任意の付加IDから連番号割当 （MODE）　　2＝任意の付加IDから偶数番号割当 3＝任意の付加IDから奇数番号割当 開始付加ID　：　1～255 （カイシID） 「カイシ　シマスカ？（Yes：1）」と表示後「1」を押し終了すると「カンリョウ　シマシタ！」と表示されます。

注意

項目3で付加ID連続割当実行時、開始付加IDが偶数で奇数番号割当を実行した場合には、開始付加IDは自動的にプラス1され割付けを開始します。（開始付加IDを奇数で偶数番号割当を実行の場合も同様に処理）
任意の割当開始付加ID番号から連続に割当てる方法において、割付ける付加IDが255の次は1に戻ります。

V1-04でこのコマンドを実行するとアイテムNo2「セルステーション毎の付加ID」の設定になり、この項目のみ設定できます。

コマンド番号	0154	V1-04 以降	2/2
コマンド名称	セルステーション付加 ID 設定		

初期値

アイテム No1　同一付加 ID の割当の重複設定：1（禁止）
アイテム No2　セルステーション毎の付加 ID

CS番号	付加ID	CS番号	付加ID	CS番号	付加ID	CS番号	付加ID
1	193	17	225	33	1	49	33
2	195	18	227	34	3	50	35
3	197	19	229	35	5	51	37
4	199	20	231	36	7	52	39
5	201	21	233	37	9	53	41
6	203	22	235	38	11	54	43
7	205	23	237	39	13	55	45
8	207	24	239	40	15	56	47
9	209	25	241	41	17	57	49
10	211	26	243	42	19	58	51
11	213	27	245	43	21	59	53
12	215	28	247	44	23	60	55
13	217	29	249	45	25	61	57
14	219	30	251	46	27	62	59
15	221	31	253	47	29	63	61
16	223	32	255	78	31	64	63

V1-04 以前では、アイテム No2、全セルステーションの初期設定値は 0 です。

備考／メモ

多システムで同一付加 ID のセルステーションが隣接する場合に設定を行います。付加 ID を 0（システム割当）に設定してある場合は、セルステーション番号が設定されているものとみなし重複チェックを行います。
重複設定を禁止してある場合に、以下のような設定はできなくなります。
（例）セルステーション 1 に 0（システム割当）を設定しセルステーション 2 に 1 を設定しようとした場合。

このコマンドは、セルステーションファーム Ver.6.11 以降で有効です。

コマンド番号	0303	
コマンド名称	WD-MU6（トーン検出ユニット）回路ブロック設定	

説明

このコマンドは WD-MT10 の回路ブロックタイプを設定します。
WD-MU6 には、4 つのトーン検出回路ブロックがあり、1 つの回路ブロックには 4 回路入っています。

入力データ

WD-MU6 回路ブロック番号：1 ～ 32
回路ブロックタイプ　　：0 ＝使用しない
　　2 ＝外線側 DTMF 検出
　　4 ＝外線側ビジートーン検出

初期値

	ブロック番号	初期値		ブロック番号	初期値
WD-MU6 1枚目	ブロック 1	2	WD-MU6 5枚目	ブロック17	2
	ブロック 2	4		ブロック18	4
	ブロック 3	2		ブロック19	2
	ブロック 4	4		ブロック20	4
WD-MU6 2枚目	ブロック 5	2	WD-MU6 6枚目	ブロック21	2
	ブロック 6	4		ブロック22	4
	ブロック 7	2		ブロック23	2
	ブロック 8	4		ブロック24	4
WD-MU6 3枚目	ブロック 9	2	WD-MU6 7枚目	ブロック25	2
	ブロック10	4		ブロック26	4
	ブロック11	2		ブロック27	2
	ブロック12	4		ブロック28	4
WD-MU6 4枚目	ブロック13	2	WD-MU6 8枚目	ブロック29	2
	ブロック14	4		ブロック30	4
	ブロック15	2		ブロック31	2
	ブロック16	4		ブロック32	4

備考／メモ

コマンド番号	0304	
コマンド名称	WD-MU4（放送接続ボード）センサーポート設定	

説明

このコマンドは、WD-MU4 のセンサーの付加情報を設定します。

入力データ

センサー No.（Sensor No.）: 1 ～ 16
タイプ（Type） : 0 ＝指定なし
1 ＝使用しない
2 ＝使用しない
3 ＝緊急一斉通報
4 ＝定時通報
付加データ 1（ADD INFO）: 1 ～ 192（0 ＝設定無し）
音声機器を接続する WD-AF10（放送入出力ユニット）ポート番号
グループ No.（Group No.）: 1 ～ 8
コマンド＜ 0323 ＞＜ 0324 ＞で設定したグループ No.
付加データ 2 : 0 ＝定時通報しない
1 ＝定時通報する

初期値

センサーNo.	タイプ	付加データ 1	付加データ 2
1	3（緊急一斉通報）	1（WD-AF10ポート1）	—
2	4（定時通報）	2（WD-AF10ポート2）	全グループ1（定時通報する）
3	4（定時通報）	3（WD-AF10ポート3）	全グループ1（定時通報する）
4 ～	0（指定なし）	—	—

備考／メモ

タイプ 4 のみ、グループ No. 毎に付加データ 2 の設定（定時通報する／しない）が必要です。
センサーの接点種別はコマンド＜ 0305 ＞「WD-MU4 センサーの接点種別」で設定してください。
コマンド＜ 0324 ＞でメンバー登録されている WD-AF10 ポート番号を設定した場合、起動の有無に関係なくグループに参加します。

コマンド番号	0305	
コマンド名称	WD-MU4（放送接続ボード）センサーの接点種別設定	
説明	このコマンドは、WD-MU4 のセンサーの接点種別（メーク／ブレーク）を設定します。	
入力データ	センサー No.（Sensor No.）: 1 ～ 16 データ : 0 ＝センサー動作時ブレーク（接点オープン） 1 ＝センサー動作時メーク（接点ショート）	
初期値	全センサー : データ＝1（センサー動作時メーク）	
備考／メモ		

コマンド番号	0318	
コマンド名称	WD-MU3（セルステーション接続ボード）運用モード設定	
説明	このコマンドは、マスター WD-MU3 の収容スロットの設定を行います。	
入力データ	マスター WD-MU3 の収容スロット No.（Slot No.）: 0 ＝設定なし 1 ～ 8	
初期値	マスター WD-MU3 の収容スロット No. : ＝0（設定なし）	
備考／メモ	このコマンドでマスター WD-MU3 の収容スロット No. を設定した後は、一度システムデータ設定モードを抜けてください。 （データを設定しただけでは、マスター WD-MU3 には切り替わりません。） システムデータ設定モードを抜けた後、以下の事を確認してください。 （1）システムデータ設定モードから抜けると全 WD-MU3 にリセットがかかりますので、全 WD-MU3 が起動するまで（約 20 ～ 30 秒間）お待ちください。 （2）全 WD-MU3 の PLT（RUN 表示 LED）が 1 秒 ON ／ 1 秒 OFF の点滅する事を確認して下さい。 （3）マスター WD-MU3 の BLI（マスター WD-MU3 表示 LED）が点灯、スレーブ WD-MU3 の BLI が消灯する事を確認してください。	

コマンド番号	0323	
コマンド名称	グループ数の設定	

説明

このコマンドは、WD-MU1（インターカムボード）の基本データを設定します。

注意

このコマンドで設定を変更する場合は、全ての子機の電源が OFF になっていることを確認してください。

入力データ

項目 1（Formation）　：グループ構成
（通話グループ構成を設定します）
入力データ：1＝　3 者×8 グループ
2＝　7 者×4 グループ
3＝15 者×2 グループ
4＝31 者×1 グループ

項目 2（Personal　GRP）　：個別グループ設定
（1 対 1 通話時に使用する個別グループの数を設定します）
入力データ：0＝個別グループを使用しない
1～7＝個別グループ数

項目 3（Use　Timer）　：外線からの一斉連絡時の状態解除タイマーの使用
入力データ：0＝無効
1＝有効

V1-04 以前では項目 3 はありません

初期値

項目 1＝4（31 者×1 グループ）

V1-04 以前では項目 1 の初期値は 3（15 者×2 グループ）です。

項目 2＝0（個別グループを使用しない）
項目 3＝1（有効）

V1-04 以前では項目 3 はありません

備考／メモ

項目 1 の「グループ構成」を変更した場合は、項目 2 の「個別グループ設定」およびコマンド <0324>「通話グループのメンバー設定」項目 2 の「登録グループ設定」は初期化されます。

項目 1 の通話グループ数とグループに参加できるメンバー数の構成および、項目 2 の個別グループ数の関係は下表の通りです。

項目 1 (グループ構成)	グループ中の 最大メンバー数	最大グループ数	項目 2 (個別グループ設定)
1	3	8	0 ～7
2	7	4	0 ～3
3	15	2	0 ～1
4	31	1	0

項目 3 は、外線が一斉連絡を起動した場合、子機または WD-MT10（多機能電話機）による一斉連絡と同様に状態解除タイマー（コマンド〈0414〉Timer No15 で設定）による状態解除を行うかを設定します。

コマンド番号	0324	
コマンド名称	通話グループのメンバー登録	

説明

このコマンドは、グループ通話を行う場合の通話参加メンバーの登録、およびメンバー毎の各種設定を行います。

入力データ

メンバー番号（Member　No）：1 ～ 64

No.	項　　目	設　定　値	備　　考
1	グループメンバー登録 （Port）	0　　＝設定なし 1～256　＝内線ポート番号 1001～1192　＝WD-AF10ポート番号 （1000 ＋ WD-AF10 ポート番号）	メンバー登録するWD-MT10、子機の内線ポート番号。WD-AF10のWD-AF10ポート番号を設定します。
2	登録グループ （Group）	0　＝通話グループ登録なし 1～8　＝通話グループ番号 9　＝WD-AF10を複数グループに登録する。	メンバーとなる通話グループの番号を設定します。 通話グループ番号の最大値はコマンド〈0323〉で決定します。
3	個別呼出先 1 （Pair_1）	0　＝設定なし 1～256　＝内線ポート番号	個別呼出をおこなった時に、呼出す相手先の内線ポート番号を設定します。
4	個別呼出先 2 （Pair_2）	0　＝設定なし 1～256　＝内線ポート番号	
5	グループ通話運用設定 （Incom Mode）	0　＝内線電話機運用 1　＝グループ通話運用	
6	放送出力先設定 （Paging GRP）	0　＝全放送グループ 1～8　＝放送グループ番号	放送グループ番号はコマンド〈1606〉で設定します。
7	放送中受話選択 （Mute（Paging））	0　＝受話ミューティング（無音） 1　＝時グループの音声を受話	
8	WD-AF10 の複数グループ登録設定 （ACI Group No）	通話グループ番号　：1～8 入力データ　：0 ＝接続しない 1 ＝接続する	通話グループ番号の最大値はコマンド〈0323〉で決定します。

内線ポート番号は子機の場合、子機登録をおこなった時の PS 番号と同じです。
個別呼出先（Pair__2）を使用する場合は、P71『3. スイッチアサイン（スイッチ機能割付）の設定』を参照し、スイッチアサインを実施してください。

項目 2 で「9」を設定した場合は、項目 8 の設定入力待ちになります。（WD-AF10 の場合のみ）

V1-04 以前では、項目 6 ～ 8 の設定はありません。項目 1 の設定値は 0 ～ 256 です。項目 2 の設定値は 0 ～ 8 です。

初期値

全メンバー：項目 1 ＝ 0（設定なし）
項目 2 ＝ 0（通話グループ登録なし）
項目 3 ＝ 0（設定なし）
項目 4 ＝ 0（設定なし）
項目 5 ＝ 0（内線電話機運用）
項目 6 ＝ 0（全放送グループ）
項目 7 ＝ 0（受話ミューティング）
項目 8 ＝ 0（全通話グループ、接続しない）

コマンド番号	0324	2/2
コマンド名称	通話グループのメンバー登録	

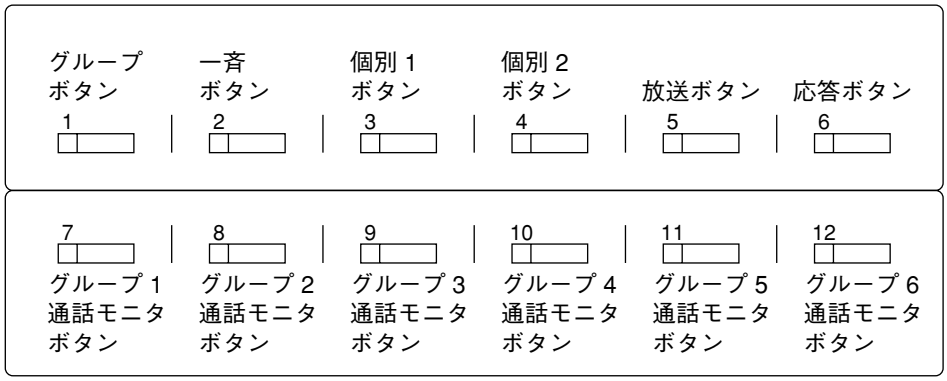
備考／メモ

項目2, 7の「通話グループ番号」の最大の設定値は、コマンド＜0323＞「グループ数の設定」項目1「グループ構成」によって変わります。

コマンド＜0323＞「グループ数の設定」項目1「グループ構成」を変更した場合、項目2の「登録グループ」は初期化されます。

多機能電話機を項目4で「グループ通話運用」に設定すると、以下の機能が機能ボタンに設定されます。

機能ボタン1　：グループボタン　（グループ通話）
機能ボタン2　：一斉ボタン　（一斉連絡）
機能ボタン3　：個別1ボタン　（個別呼出1）
機能ボタン4　：個別2ボタン　（個別呼出2）
機能ボタン5　：放送ボタン　（放送）
機能ボタン6　：応答ボタン　（応答）
機能ボタン7　：グループ1通話モニタボタン
機能ボタン8　：グループ2通話モニタボタン
機能ボタン9　：グループ3通話モニタボタン
機能ボタン10　：グループ4通話モニタボタン
機能ボタン11　：グループ5通話モニタボタン
機能ボタン12　：グループ6通話モニタボタン



WD-AF10をメンバー登録する場合は、WD-AF10を接続してください。

コマンド番号	0401	
コマンド名称	テナント毎の機能設定	

説明

このコマンドは、各テナントの共通機能を設定します。
本システムではテナント分けでの使用はしません。全てのコマンドでテナントNo.の設定を行う場合は「1」を設定してください。

入力データ

テナントNo.（Tenant No.）：1～4

Item No.	項　目	設定値
1	手動夜間切替	0 = しない 1 = する
2	自動夜間切替	0 = しない 1 = する
3	本システムでは使用しません	0
4	本システムでは使用しません	1
5	本システムでは使用しません	0
6	本システムでは使用しません	1
7	本システムでは使用しません	0
8	本システムでは使用しません	1
9	本システムでは使用しません	0
10	本システムでは使用しません	1
11	未使用	
12～14	本システムでは使用しません	1
15	短縮キー追加	0 = 共通短縮 1 = グループ短縮
16	本システムでは使用しません	1
17～21	本システムでは使用しません	0
22	未使用	
23	短縮ダイヤル発信	0 = 外線発信モード 1 = 内線発信モード
24～28	本システムでは使用しません	0

備考／メモ

全テナント、設定値の下線がある方が初期値です。

コマンド番号	0405	
コマンド名称	システムタイマー設定 1	

説明

このコマンドは、システムの各タイマーの値を設定します。

入力データ

テナント No.（Tenant No.）: 1 ～ 4
タイマー No.（Timer No.）: 1 ～ 80
データ : 0 ～ 64800（単位は秒）
（ただしタイマー No. 36 は 41 ～ 64800
No. 37 は 20 ～ 60 です）

初期値

全テナント

Timer No.	項　目	データ
1	未使用	
2	個別保留	90
3	個別保留コールバック	30
4	未使用	
5	呼出状態転送	30
6	未使用	
∫		
18	未使用	
19	コンジェンストーン	10
20	ワーニングトーン	10
21	確認トーン	10
22	共通保留	90
23	指定時間呼出	30
24	長時間警告1	170
25	長時間警告2	180
26	未使用	
27	共通保留コールバック	30

Timer No.	項　目	データ
28	内線ダイヤルトーン	120
29	キャンプオンキャンセル	64800
30	外線桁間	10
31	未使用	
32	未使用	
33	未使用	
34	DID/DISAダイヤルトーン	10
35	DID/DISA未応答	30
36	リピートダイヤル間隔	60
37	リピートダイヤルコール	30
38	発信規制一時解除	10
39	プリセットダイヤル	5
40	長時間保留強制解除	1800
41	未使用	
80	未使用	

備考／メモ

コマンド番号	0414	
コマンド名称	システムタイマー設定２	

説明

このコマンドは、システムの各タイマーの値を設定します。

入力データ

テナントNo.（Tenant No.）: 1 ～ 4
タイマーNo.（Timer No.） : 1 ～ 80
データ : 0 ～ 64800（単位は秒）
（ただしタイマーNo. 8 は 1 ～ 254、0 はハンドオーバーなし、
255 はタイムアウトなしです）

初期値

全テナント

Timer No.	項　目	データ
1	未使用	
⁞		
7	未使用	
8	ハンドオーバー処理完了までの最大待ち時間	10
9	PS圏外判定時間	8
10	未使用	
⁞		
14	未使用	
15	グループ通話復帰時間（状態解除タイマー）	60
16	未使用	
⁞		
18	未使用	
19	グループ通話外線切断時間	60
20	未使用	
⁞		
80	未使用	

備考／メモ

タイマーNo.15は「放送」「個別呼出」「一斉連絡」「外線からの一斉連絡」から自動的にグループ通話に戻るまでの時間です。
タイマーNo.19は「外線からのグループ通話参加」「外線からの一斉連絡」から自動的に外線を切断するまでの時間です。
外線からの一斉連絡の場合タイマーNo.15と19のうち短い方のタイマーが有効です。この場合、コマンド＜0323＞でタイマーNo.15の有効／無効を設定できます。

V1-04以前ではタイマーNo.19は未使用です。

コマンド番号	0501	
コマンド名称	番号計画	

説明

このコマンドは、ダイヤルの１桁目と２桁目を指定します。
システムでは、内線番号、サービス特番等の１桁目と２桁目の指定をします。

入力データ

テナントNo.（Tenant No.）：１～４
ダイヤル（Dial）　：１～９、０、＊、＃、（1桁、または２桁）
桁数（Digit）　：０＝指定なし
１＝１桁必要
２＝２桁必要
３＝３桁必要
４＝４桁必要
ダイヤルの種類（Kind）　：０＝このダイヤルを使用しません
１＝サービス特番アクセス
２＝内線アクセス
３＝外線アクセス
４＝２桁目に続く
３～５、７～14は設定しないでください。

初期値

全テナント　：

ダイヤル	桁数	ダイヤルの種類
1	3	1（サービス特番アクセス）
2	3	2（内線アクセス）
3	3	2（内線アクセス）
4	3	2（内線アクセス）
5	3	2（内線アクセス）
6	3	2（内線アクセス）
7	3	2（内線アクセス）
8	4	9（未使用）
9	3	1（サービス特番アクセス）
0	1	6（外線アクセス）
＊	0	0（使用しない）
＃	0	15（2桁目に続く）
＃＊	4	1（サービス特番アクセス）

備考／メモ

ダイヤル「＃」及び「＃＊」の設定を変更しデータ設定モードから抜けると、データ設定モードには入れなくなりますので変更しないでください。

コマンド番号	0502	
コマンド名称	電話機の内線番号、名称設定	

説明

このコマンドは、各電話機のダイヤル番号と名称を設定します。

入力データ

内線ポート番号（STA No.）：1 ～ 384
（257 ～ 384 ＝仮想内線）
ダイヤル　：ダイヤルコード（4 桁まで、初期状態では 3 桁）
名称　：カタカナ、英数字（10 文字まで）

初期値

内線ポート番号	ダイヤル	名称
1	200	ナイセン 200
⋮	⋮	⋮
256	455	ナイセン 455
257	無し	無し
⋮	⋮	⋮
384	無し	無し

備考／メモ

コマンド番号	0504	
コマンド名称	WD-AF10（放送入出力ユニット）の内線番号設定	

説明

このコマンドは、各 WD-AF10 のダイヤル番号を設定します。

放送入出力ユニットより電話機が優先されるので、コマンド＜ 0502 ＞「電話機の内線番号、名称設定」で設定した内線番号と重複すると放送入出力ユニットに着呼しません。
他の放送入出力ユニット関係データはコマンド＜ 1301 ＞「放送入出力ユニットポートタイプの設定」で設定します。

入力データ

WD-AF10 ポート番号（ACI No.）：1 ～ 192
ダイヤル　：ダイヤル番号
（4 桁まで、初期状態では 3 桁）

初期値

WD-AF10 ポート番号　：設定なし

備考／メモ

コマンド番号	0511	
コマンド名称	サービス特番１	

説明

このコマンドは、サービス特番（各種の機能を実行するときに多機能電話でダイヤルする番号）を設定します。
システムには200個のサービス特番があり、本コマンドとコマンド＜0514＞の2つに分かれていますが重複設定はありません。

入力データ

テナントNo.（Tenant No.）：1～4
サービスNo.（SRVCD）　：1～100
ダイヤル　　：0～＃＃＃＃
（サービス特番アクセスの「ダイヤル」、「桁数」はコマンド＜0501＞で設定します）

初期値

全テナント　　：

No.	機　能	ダイヤル
1	保留音曲目変更	981
2	未使用	
3	不在着信転送／設定	942
4	未使用	
5	夜間モード切替	918
6	未使用	
7	着信拒否／設定	947
8	未使用	
～		
12	未使用	
13	再ダイヤル発信	916
14	会議通話	926
15	未使用	
～		
18	未使用	
19	放送	903
20	未使用	
21	未使用	
22	未使用	
23	共通短縮ダイヤル発信	913
24	グループ短縮ダイヤル発信	914
25	セーブドナンバーダイヤル	915
26	未使用	
27	ワンタッチダイヤル／設定	955
28	未使用	
～		
33	未使用	
34	フッキング	906
35	未使用	
36	ファンクションボタン設定	951
37	システムデータ登録モード	＃＊＃＊
38	未使用	
39	時刻データ設定	928
40	未使用	

No.	機　能	ダイヤル
41	発信規制一時解除	975
42	未使用	
43	未使用	
44	未使用	
45	放送応答	965
46	未使用	
～		
53	未使用	
54	再ダイヤル消去	976
55	未使用	
～		
58	未使用	
59	着信音色切替	920
60	未使用	
～		
62	未使用	
63	話中転送	943
64	未使用	
～		
67	未使用	
68	共通短縮ダイヤル設定	953
69	グループ短縮ダイヤル設定	954
70	未使用	
～		
77	未使用	
78	セーブドダイヤル消去	985
79	内線名称入力	900
80	未使用	
～		
84	未使用	
85	着信転送	948
86	未使用	
～		
100	未使用	

コマンド番号	0514	
コマンド名称	サービス特番２	

説明

このコマンドは、サービス特番を設定します。

システムには200個のサービス特番があり、本コマンドとコマンド＜0511＞の２つに分かれていますが重複設定はありません。

入力データ

テナントNo.（Tenant No.）：1～4
サービスNo.（SRVCD）　：1～100
ダイヤル　　：0～＃＃＃＃
（サービス特番アクセスの「ダイヤル」、「桁数」はコマンド＜0501＞で設定します）

初期値

全テナント　：

SRVCD	項　目	データ
1	内線による転送設定	990
2	内線による転送解除	991
3	内線による転送先登録	992
4	未使用	
≀		
75	未使用	
76	DID/DISAグループ通話アクセス	933
77	グループ通話外線の強制切断	944
78	未使用	
≀		
100	未使用	

備考／メモ

サービスNo.76は付加番号により「外線からのグループ参加」（付加番号1～8）と「外線からの一斉連絡」（付加番号0）の両方に使用します。
サービスNo.77は付加番号により「グループ参加外線の強制切断」（付加番号1～8）と「一斉連線および全グループ参加外線の強制切断」（付加番号0）の両方に使用します。

V1－04以前ではサービスNo.76、77は未使用です。

コマンド番号	0701	
コマンド名称	発着信規制クラスの設定	

説明

このコマンドは、発信／着信時の規制項目を設定します。

本コマンドの発信規制クラスをコマンド＜ 1004 ＞で、内線ポート毎に設定します。

入力データ

テナント No.（Tenant No.）　：1 ～ 4
発信規制クラス No.（Class No.）：1 ～ 15
項目 1（国際自即）　：0 ＝規制しない
　1 ＝規制する
項目 2（市外）　：0 ＝規制しない
　1 ＝規制する
項目 3（市内）　：0 ＝規制しない
　1 ＝規制する
項目 4（外線着信）　：0 ＝規制しない
　1 ＝規制する
項目 5（内線相互）　：0 ＝規制しない
　1 ＝規制する
項目 6（共通禁止）　：0 ＝無効
　1 ＝有効
項目 7（共通許可）　：0 ＝無効
　1 ＝有効
項目 8（共通短縮）　：0 ＝規制しない
　1 ＝規制する
項目 9（グループ短縮）　：0 ＝規制しない
　1 ＝規制する
項目 10（桁長制限）　：0 ＝規制しない
　1 ＝規制する
項目 11（未使用）

初期値

全テナント　：

項目 / クラス	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
4	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0
5	1	1	0	0	0	1	1	1	1	0	0
6	1	1	1	0	0	1	1	1	1	0	0
7	1	1	1	1	0	1	1	1	1	0	0
8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0
⋮						⋮					
15	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0

備考／メモ

コマンド番号	0901	
コマンド名称	外線回路のタイプ、外線個別データ設定	

説明

このコマンドは、各外線に外線ポートタイプを設定します。

入力データ

外線ポート番号（TRK No.）: 1 ～ 128

Item No.	項　目	設定値	備　考
1	DP/PB	0 =DP（10PPS） 1 =DP（20PPS） 2 =PB	
2～5	未使用		
6	フックボタン動作	0 =フッキング時間1 1 =フッキング時間2	
7	接続形態	0 =NTTに直接接続 1 =未使用 2 =未使用	
8～11	未使用		
12	マニュアルダイヤル時の局線捕捉直後の1桁目のポーズ	0 =ポーズしない 1 =ポーズする	
13	未使用		
14	サービスタイプ（昼間）	0 =一般着信 1 =DID 2 =DISA 3 =未使用 4 =DIL 5 =未使用	
15	サービスタイプ（夜間）	0 =一般着信 1 =DID 2 =DISA 3 =未使用 4 =DIL 5 =未使用	
16	サービスタイプ（深夜）	0 =一般着信 1 =DID 2 =DISA 3 =未使用 4 =DIL 5 =未使用	
17	サービスタイプ（休憩）	0 =一般着信 1 =DID 2 =DISA 3 =未使用 4 =DIL 5 =未使用	
18	発信	0 =不可能 1 =可能	
19	発信規制	0 =する 1 =しない	〈0701〉で設定した発信規制クラスによる
20	長時間保留強制切断	0 =しない 1 =する	
21～31	未使用		

備考／メモ

全外線ポート、下線側が初期設定値です。

コマンド番号	0903	
コマンド名称	外線の名称設定	

説明

このコマンドは、各外線ポートの名前を設定します。
外線補足時、および一般着信時に鳴動電話機に表示します。

入力データ

外線ポート番号（TRK No.）: 1 ～ 128
データ　　: カタカナ、英数字（10 文字まで）

初期値

外線ポート番号 001　名称「ガイセン　001」
外線ポート番号 002　名称「ガイセン　002」
・
・
・
外線ポート番号 128　名称「ガイセン　128」

備考／メモ

コマンド番号	0907	
コマンド名称	電話機に対しての外線ルート設定	

説明

このコマンドは、各電話機ポート毎に外線捕捉のルートテーブル（外線発信時、使用する外線ポートの優先順位を設定するテーブル）を設定します。

本コマンドの設定は、「外線アクセスダイヤル（初期値は0）」または「発信」を押下、およびワンタッチ／短縮ダイヤル発信時に自動捕捉するルートテーブルを設定します。

入力データ

内線ポート番号（Part No.）　：1 ～ 384
（257 ～ 384 ＝仮想内線）
ルートテーブル No.（昼間）（Route [DAY]）：0 ～ 64
ルートテーブル No.（夜間）（Route [NIT]）：0 ～ 64
ルートテーブル No.（深夜）（Route [MID]）：0 ～ 64
ルートテーブル No.（休憩）（Route [REST]）：0 ～ 64
（0 ＝指定なし）

初期値

全内線ポート番号：ルートテーブル No. ＝1（ルート1）

備考／メモ

コマンド＜ 0901 ＞項目 18 で「発信しない」に設定されている外線は捕捉しません。

ルートテーブルの設定は以下の通りです。

外線ポートNo.	グループNo.	補捉優先順位
001	1	1
002	1	2
⋮	⋮	⋮
128	1	128

ルートテーブル1

捕捉順位	グループNo.
1	1
2	指定なし
3	指定なし
4	指定なし

ルートテーブル 2 ～ 64
全グループ No. 指定なし

コマンド番号	0909	
コマンド名称	外線の着信グループ設定	

説明

このコマンドは、着信グループを設定します。

本コマンドは、コマンド＜ 0901 ＞の項目 14 ～ 17 を「0」（一般着信）に設定した時の鳴動電話機を設定します。
鳴動させる内線ポートに対して「1」（鳴動する）を設定します。
本コマンドで設定した着信グループをコマンド＜ 0910 ＞で外線ポート毎に設定します。

入力データ

着信グループ No.（IRG No.）：1 ～ 128
内線ポート番号（STA No.）　：1 ～ 384
（257 ～ 384 ＝仮想内線）
データ　：0 ＝鳴動しない
1 ＝鳴動する

初期値

着信グループ No. 1
内線ポート番号 1　：データ＝1（鳴動する）
内線ポート番号 2 ～ 384　：データ＝0（鳴動しない）

着信グループ No. 2 ～ 128
内線ポート番号 1 ～ 384　：データ＝0（鳴動しない）

備考／メモ

コマンド番号	0910	
コマンド名称	外線の着信先設定	

説明

このコマンドは、外線着信した時の着信グループを設定します。

着信グループは、コマンド＜ 0909 ＞「外線の着信グループ設定」で設定します。

入力データ

外線ポート番号（TRK No.）　：1～128
着信グループNo.（昼間）（Target [DAY]）　：0＝設定なし
1～128
着信グループNo.（夜間）（Target [NIT]）　：0＝設定なし
1～128
着信グループNo.（深夜）（Target [MID]）　：0＝設定なし
1～128
着信グループNo.（休憩）（Target [REST]）：0＝設定なし
1～128

初期値

全外線ポート　　：着信グループNo.　＝1

備考／メモ

コマンド番号	0917	
コマンド名称	DILの着信先指定	
説明	このコマンドは、DIL着信した時の着信先の内線ポートを設定します。 本コマンドは、コマンド＜0901＞「外線回路のタイプ、外線個別データ設定」の項目14～17を「4」（DIL）に設定した時の着信先を設定します。	
入力データ	外線ポート番号（TRK No.）　：1～128 内線ポート番号（昼間）（Target [DAY]）：0＝設定なし 1～384 内線ポート番号（夜間）（Target [NIT]）：0＝設定なし 1～384 内線ポート番号（深夜）（Target [MID]）：0＝設定なし 1～384 内線ポート番号（休憩）（Target [REST]）：0＝設定なし 1～384 内線ポート番号257～384は仮想内線	
初期値		
備考／メモ		

コマンド番号	0924	
コマンド名称	外線ポードの閉塞	
説明	このコマンドは、外線を接続していない外線ポートを閉塞し未使用にします。 閉塞した外線ポートは発着信できなくなります。	
入力データ	外線ポート番号 Port No.　：1～128 データ（DATA）　：0＝閉塞しない（発着信できる） ：1＝閉塞する（発着信できない）	
初期値	全外線ポート　：0＝（閉塞しない）	
備考／メモ	通話中の外線を1（閉塞する）に設定しても、その通話を終了するまでは正常に動作します。	

コマンド番号	1002	
コマンド名称	電話機のテナント設定	
説明	このコマンドは、各内線ポートのテナント番号を指定します。	
入力データ	内線ポート番号（STA No.）: 1 ～ 384 （257 ～ 384 : 仮想内線） テナント No. : 1 ～ 4	
初期値	全内線ポート : テナント No. ＝ 1（テナント 1）	
備考／メモ		

コマンド番号	1004	
コマンド名称	電話機の発信規制クラス設定	
説明	このコマンドは、各内線ポートの発信規制クラスを設定します。 発信規制クラスは、コマンド＜ 0701 ＞で設定します。	
入力データ	内線ポート番号（STA No.） : 1 ～ 256 発信規制クラス（CLS [DAY]）: 1 ～ 15 データ 2 :（使用しない、変更しない） データ 3 :（使用しない、変更しない） データ 4 :（使用しない、変更しない） データ 5 :（使用しない、変更しない）	
初期値	全内線ポート : 発信規制クラス＝ 2	
備考／メモ		

コマンド番号	1006	
コマンド名称	WD-MT10（多機能電話機）のファンクションボタン設定	

説明

このコマンドは WD-MT10 のファンクションボタンの機能を設定します。

注意

1 台の多機能電話機には同一機能を重複してファンクションボタンに設定できません。
ただし、付加データが異なる場合は設定できます。

入力データ

電話機ポート番号（KST　No）：1 ～ 256
ファンクションボタン番号（Key　No）：1 ～ 16

コード（Code）	付加データ	機　能	備　考
0	なし	機能なし	ファンクションボタン機能を消去する
1～128	なし	外線ボタン	コード＝外線ポート番号1～28
1011	なし	外線アクセス	
1014	なし	セーブドナンバーリダイヤル	
1015	なし	メモダイヤル	
1026	なし	送話カット	
1028	なし	ヘッドセットモード	
1037	なし	共通短縮ダイヤル	
1038	なし	グループ短縮ダイヤル	
1039	なし	昼間モード切り替え	
1040	なし	夜間モード切り替え	
1041	なし	深夜モード切り替え	
1042	なし	休憩モード切り替え	
1043	なし	共通保留	
1044	なし	個別保留	
1057	なし	ポーズ	
1083	なし	グループボタン	
1084	なし	一斉ボタン	
1085	1～2	個別ボタン	個別呼出し先はコマンド〈0324〉で設定 付加データは個別1または2
1086	なし	応答ボタン	
1087	1～8	グループモニターボタン	付加データはモニターする通話グループ番号
1089	なし	放送ボタン	
1097	0～8	グループ通話外線の強制切断	付加データは切断するグループ､0の場合は全グループ

初期値

多機能電話機をコマンド＜0324＞で通話グループのメンバーに登録している場合の初期値はコマンド＜0324＞の説明を参照してください。
それ以外ではファンクションボタン 1 ～ 12 の初期値は外線ポート番号 1 ～ 12 です。

備考／メモ

V1-04 以前ではコード 1097 は使用できません

コマンド番号	1301
コマンド名称	WD-AF10（放送入出力ユニット）ポートタイプの設定

説明

このコマンドは WD-AF10 のポートタイプを設定します。

入力データ

WD-AF10 ポート番号（ACI　No.）：1 ～ 192
WD-AF10 ポートタイプ　　：0 ＝設定なし
　　1 ＝入力のみ
　　2 ＝出力のみ
　　3 ＝入出力同時

V1-04 以前では WD-AF10 ポートタイプは 0 ～ 2 です。

初期値

全 WD-AF10 ポート　：WD-AF10 ポートタイプ＝3

V1-04 以前では初期値は 0 です。

備考／メモ

コマンド番号	1606
コマンド名称	放送グループの設定

説明

このコマンドは、各放送グループを設定します。
コマンド〈0324〉で放送出力先（WD-MU4（放送接続ボード））として放送グループ番号を使用します。

入力データ

WD-MU4 ポート番号（SPK No）：1 ～ 8
放送グループ番号　　：0 ＝設定なし
　　1 ～ 8

初期値

WD-MU 4ポート番号	放送グループ番号
1	1
2	2
3	3
4	4
5	5
6	6
7	7
8	8

備考／メモ

コマンド番号	1801	
コマンド名称	DISA パスワード設定	
説明	このコマンドは DISA のパスワードを設定します。 システムには、各テナント毎に 15 種類の DISA パスワードがあります。	
入力データ	テナント No.（Tenant　No） ユーザー No.（User　No） パスワード（PWD） 外線サービス機能クラス（昼間）（CLS（DAY）） 外線サービス機能クラス（夜間）（CLS（NIT）） 外線サービス機能クラス（深夜）（CLS（MID）） 外線サービス機能クラス（休憩）（CLS（REST））	：1 ～　4 ：1 ～ 15 ：000000 ～ 999999 ダイヤル（6 桁固定） ：0 ～ 15（0 ＝設定なし） ：0 ～ 15（0 ＝設定なし） ：0 ～ 15（0 ＝設定なし） ：0 ～ 15（0 ＝設定なし）
初期値	全テナント。全ユーザー：パスワード設定なし	
備考／メモ	外線サービス機能クラスについては、コマンド＜ 0415 ＞を参照してください。 パスワード表示中に[CLEAR]ボタンを押すとパスワードを消去できます。	

コマンド番号	1802	
コマンド名称	DID ／ DISA の動作モード設定	
説明	このコマンドは DID ／ DISA の動作モードを設定します。	
入力データ	テナント No.（Tenant　No） 項目 No.（Item　No） 動作モード（昼間）（Mode（DAY）） 動作モード（夜間）（Mode（NIT）） 動作モード（深夜）（Mode（MID）） 動作モード（休憩）（Mode（REST））	：1 ～ 4 ：1 ＝ DID ／ DISA ダイヤルトーンタイムオーバー 2 ＝未応答 3 ＝誤ダイヤル ：0 ＝切断　1 ＝転送 ：0 ＝切断　1 ＝転送 ：0 ＝切断　1 ＝転送 ：0 ＝切断　1 ＝転送
初期値	全項目、全モード：0（切断）	
備考／メモ	動作モードで転送を選択した場合はコマンド＜ 1803 ＞で転送先を設定します。 項目 No.1 はコマンド＜ 0405 ＞タイマー No.34 で、項目 No.2 はコマンド＜ 0405 ＞タイマー No.35 でタイマー値を設定します。	

コマンド番号	1803	
コマンド名称	DID／DISAの転送先設定	

説明

このコマンドはコマンド〈1802〉で転送を設定した場合の転送先を設定します。

入力データ

外線ポート番号（TRK Port No）	：1～128
着信グループNo.（昼間）（Group（DAY））	：0～128（0＝設定なし）
着信グループNo.（夜間）（Group（NIT））	：0～128（0＝設定なし）
着信グループNo.（深夜）（Group（MID））	：0～128（0＝設定なし）
着信グループNo.（休憩）（Group（REST））	：0～128（0＝設定なし）

初期値

全外線ポート。全グループ：0（設定なし）

備考／メモ

着信グループNo.はコマンド〈0909〉で設定します。

コマンド番号	1815	V1-05以降
コマンド名称	DID/DISA回線の自動ダイヤル設定	

説明

このコマンドはDID/DISAに設定された外線に着信した場合の自動ダイヤルデータを設定します。

入力データ

外線ポート番号（TRK No.）	：1～128
運用モード（Mode）	：1～4 （1＝昼間、2＝夜間、3＝深夜、4＝休憩）
入力データ	：自動ダイヤルデータ（最大24桁） （使用可能0、1～9、＃、＊、ポーズ） 入力データ表示中に［CLEAR］ボタンを押すと、入力データを消去できます。

初期値

全外線ポート、全運用モード：設定なし

備考／メモ

自動ダイヤルが設定されている外線にDID/DISA着信すると、DIDの場合着信自動応答後すぐに、DISAの場合パスワード受信後に、設定されているダイヤルデータの受信処理を行います。つまり、DID/DISA着信後（DISAはパスワード受信後）に通常は発信者がダイヤルする内容をあらかじめシステムデータに登録しておくことにより、着信後自動的に端末を呼び出したり、各種サービスに接続することができます。

コマンド番号	2901	
コマンド名称	子機登録	
説明	このコマンドは、システムに使用される子機の登録をします。	
入力データ	なし	
初期値		
備考／メモ	初期状態では登録台数は 0 台です。	

コマンド番号	2902	
コマンド名称	子機登録抹消	
説明	このコマンドは、システムに使用されている子機の登録を抹消します。	
入力データ	内線ポート番号（PS 番号）: 0 ＝全子機登録抹消 17 ～ 239	
初期値		
備考／メモ		

子機設定プログラムについて

子機設定プログラムはPC（パソコン）上で動作し、子機とシリアル接続する事により子機の各種設定及びシステムへの子機登録を行います。

動作条件

子機設定プログラムを動作させるために必要なPCの条件は以下の通りです。

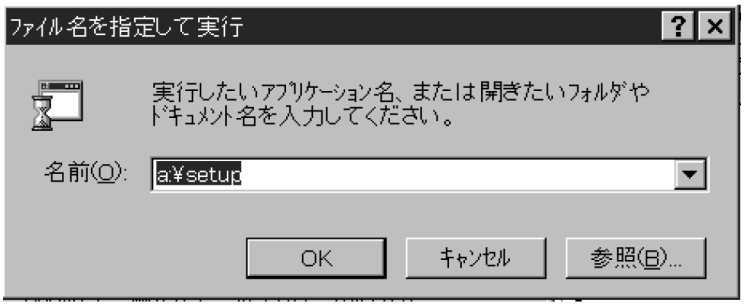
CPU	Intel Pentium 100MHz相当以上
メインメモリ	16Mバイト以上
ハードディスクドライブ	空き容量8Mバイト以上
OS環境	Microsoft Windows95
モニター環境	解像度800x600ピクセル以上
フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44MB 1ドライブ
シリアル通信ポート	RS-232-C 1ポート(COM1またはCOM2)

供給メディア

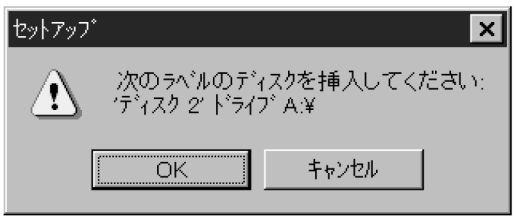
供給メディアは3.5インチフロッピーディスク(1.44MB、DOS/Vフォーマット)4枚です。

1．子機設定プログラムのインストール

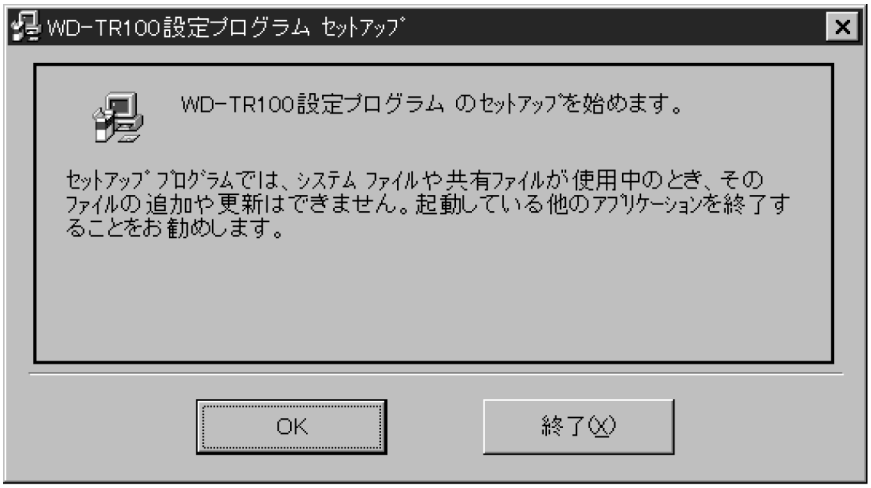
(1) 「ディスク1」と書かれたフロッピーディスクをPCのフロッピーディスクドライブにセットしてください。
(2) タスクバーの「スタート」から「ファイル名を指定して実行」を選択してください。下図のダイアログが表示されますので「a:¥setup」と入力し「OK」をクリックしてください。



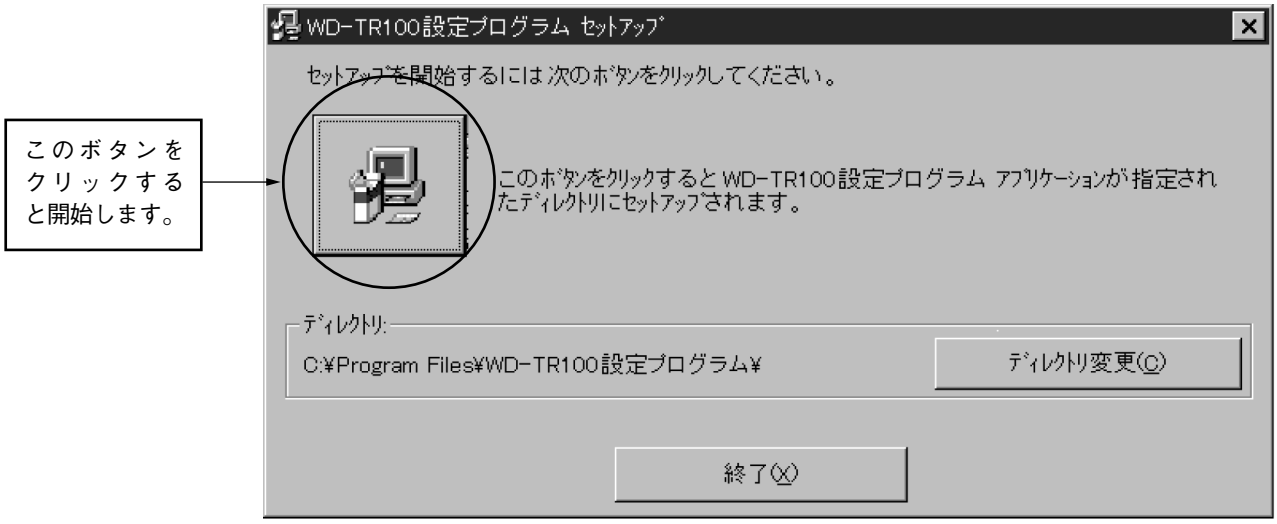
(3) 右図のダイアログが表示されますので「ディスク2」と書かれたフロッピーディスクに交換し「OK」をクリックしてください。



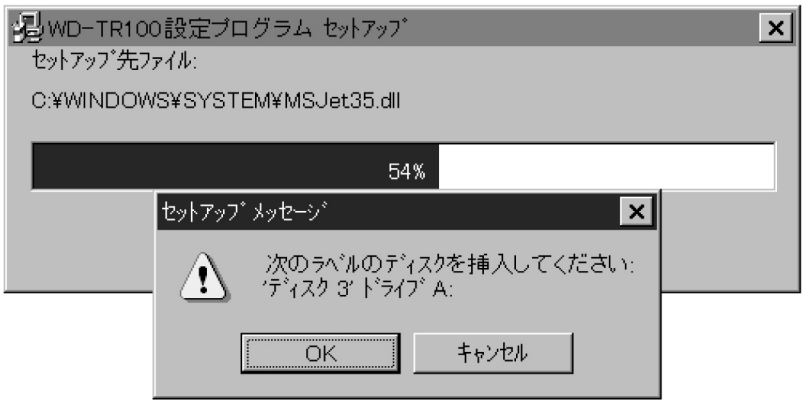
(4) 下図のダイアログが表示されますので「OK」をクリックしてください。



(5) 下図のダイアログが表示されます。インストールを続行する場合は開始ボタン(左のアイコン)をクリックしてください。



(6) 右図のダイアログが表示されますので「ディスク3」と書かれたフロッピーディスクに交換し「OK」をクリックしてください。



(7) 右図のダイアログが表示されますので「ディスク4」と書かれたフロッピーディスクに交換し「OK」をクリックしてください。

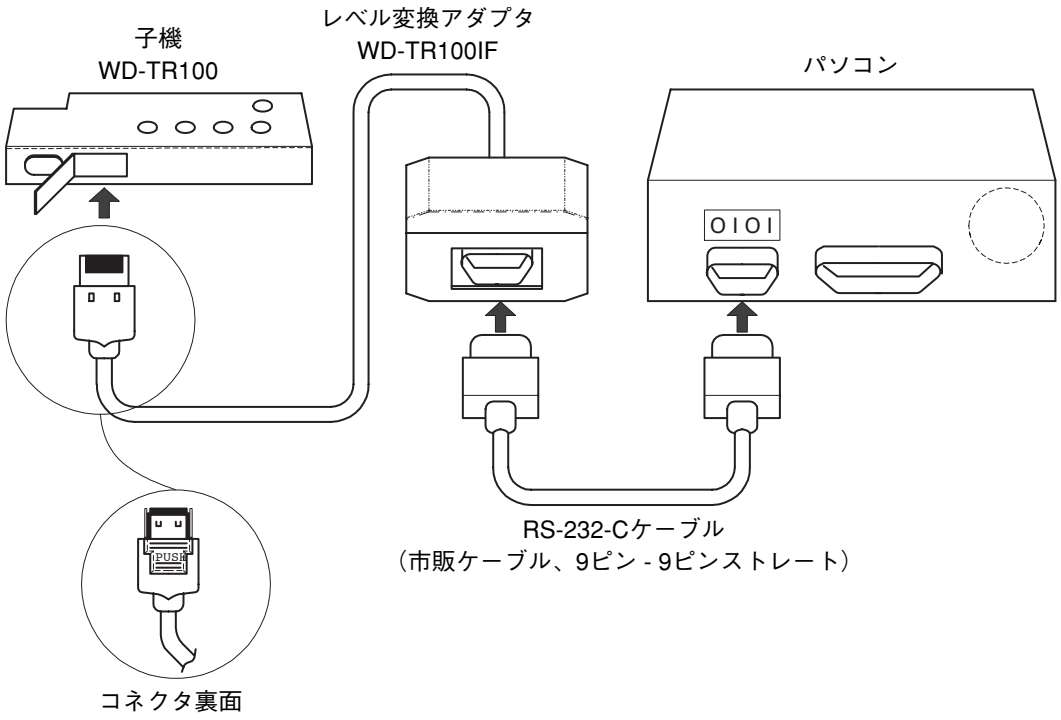
(8) 右図のダイアログが表示されますので「OK」をクリックしてください。これでインストールは完了です。

注意

PC の機種や OS のバージョンによってはインストール中に不具合が出る場合があります。

2. 子機と PC の接続

子機と PC の接続は下図の様に行います。
レベル変換アダプタと子機を接続するケーブルはコネクタの「PUSH」と書いてある面を下にします。
接続が終わってから、子機の電源を ON にしてください。



注意

「PUSH」と書いてある面を下にし接続します。

設定、登録する子機を途中で交換する時は以下の手順で行ってください。
メニュー画面の場合は以下の手順は必要ありません。

3. 子機設定プログラム使用方法

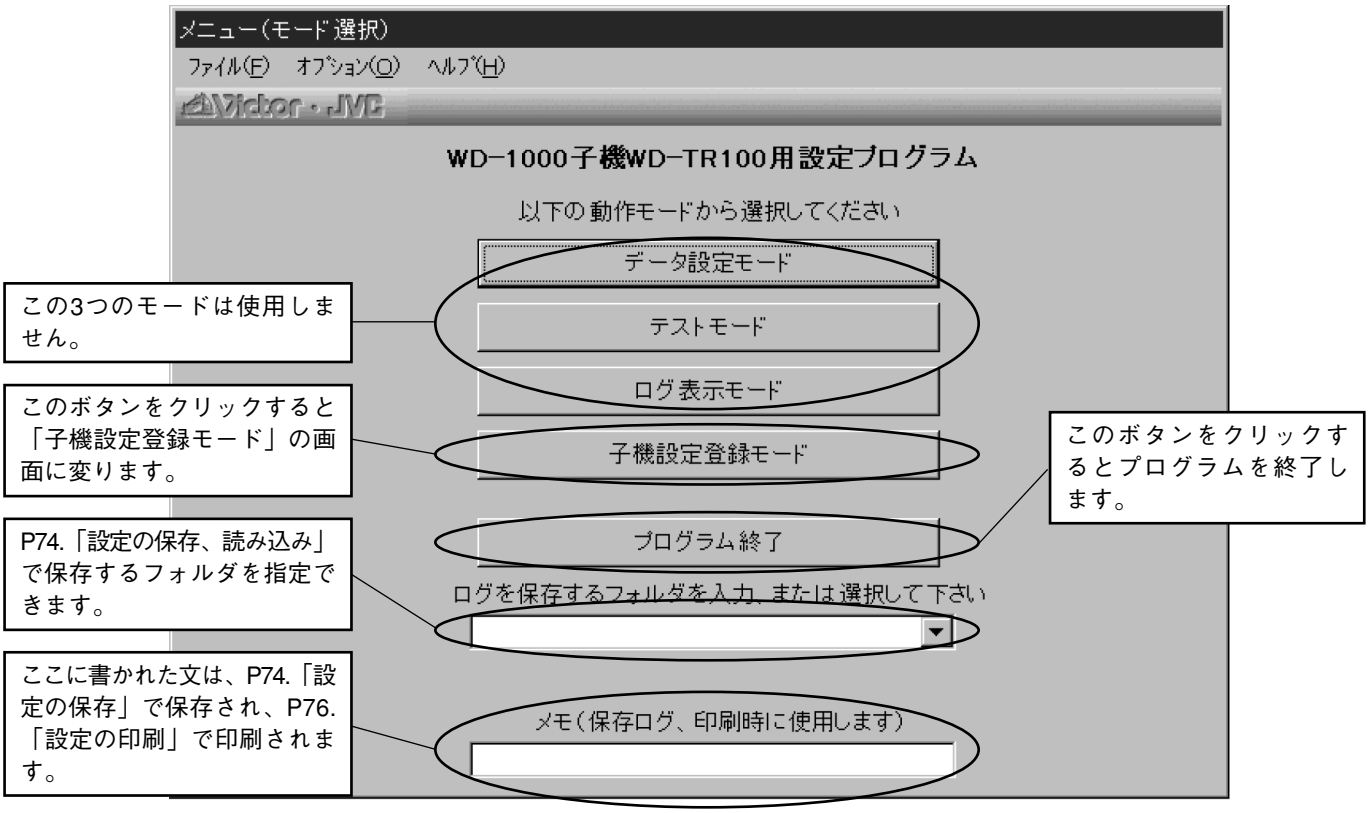
1. プログラムの起動

下図の様にタスクバーから「メニュー」>「プログラム」>「WD-TR100設定プログラム」>「WD-TR100設定プログラム」を選択し、プログラムを起動します。

注意

子機設定プログラムを使用する際は、出来るだけ常駐プログラム(ウイルス検出ソフト等)や他のアプリケーションを終了させてください。

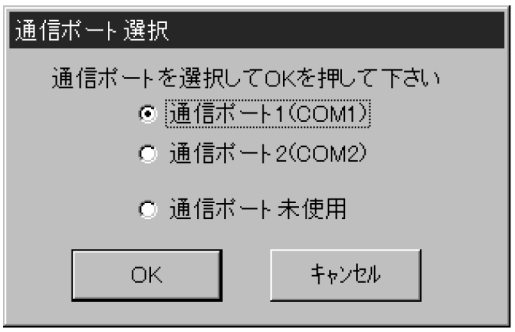
プログラムが起動すると下図のメニュー画面が表示されます。
メニュー画面の状態で子機を接続し、電源を入れてください。



子機を接続するシリアル通信ポートが「COM2」の場合、下記の方法で通信ポートを変更してください。

(1) メニュー画面の状態で、メニューバーの「オプション」>「通信ポートの選択」を選択すると、下図のダイアログが表示されます。
(2) 使用するパソコンの「通信ポート2」を選択し「OK」をクリックします。

プログラム起動時は通信ポート1が選択されています。
「キャンセル」をクリックすると、変更されないでダイアログを閉じます。



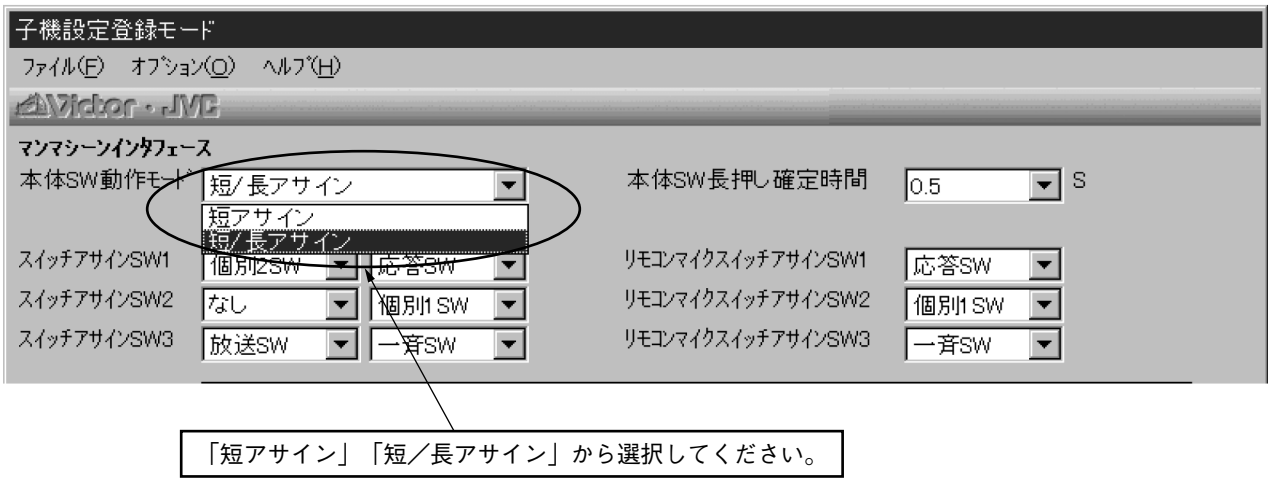
メニュー画面で「子機設定登録モード」ボタンをクリックすると下図の画面表示に切り替わります。
「メニューに戻る」をクリックすると、メニュー画面に戻ります。

4. 子機の各種設定

次の 1 ～ 6 の項目について子機の設定を行います。
PC 上で各項目を設定した後「設定書き込み」ボタンをクリックし、データを子機に書き込みます。
PS − ID は読み込みのみで、変更はできません。

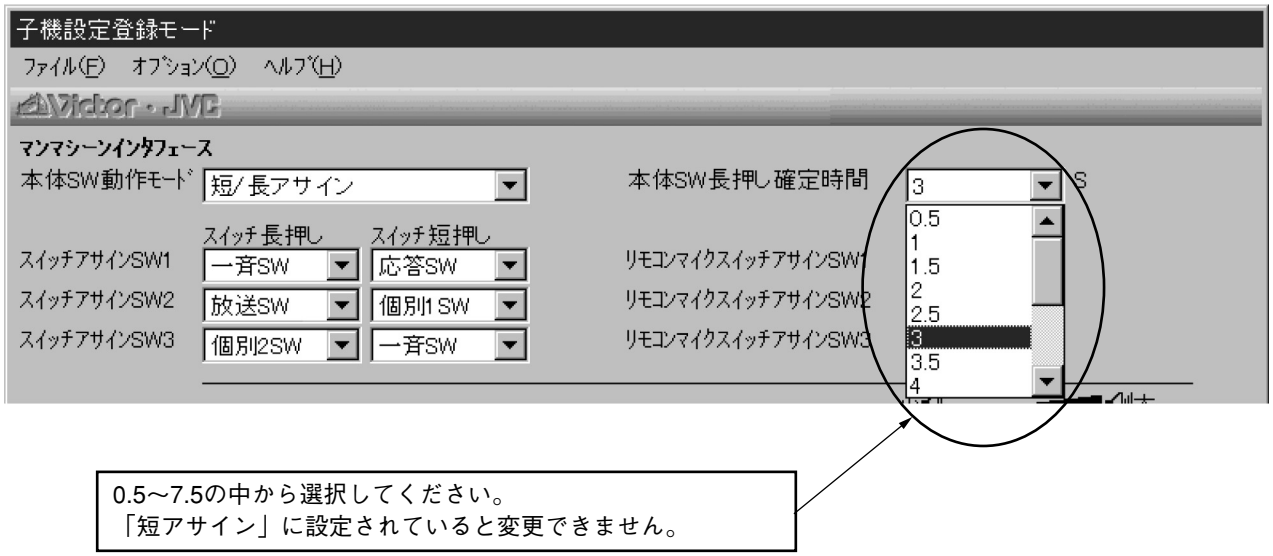
1. 本体 SW 動作モードの設定

本体 SW 動作モードは、「短アサイン」と「短／長アサイン」から選択できます。短アサインに設定すると「本体 SW 長押し確定時間」、「長押しスイッチアサイン SW1 ～ 3」の変更はできません。
「短／長アサイン」に設定すると、1 つのボタン（SW）に 2 つの機能を設定出来ます。



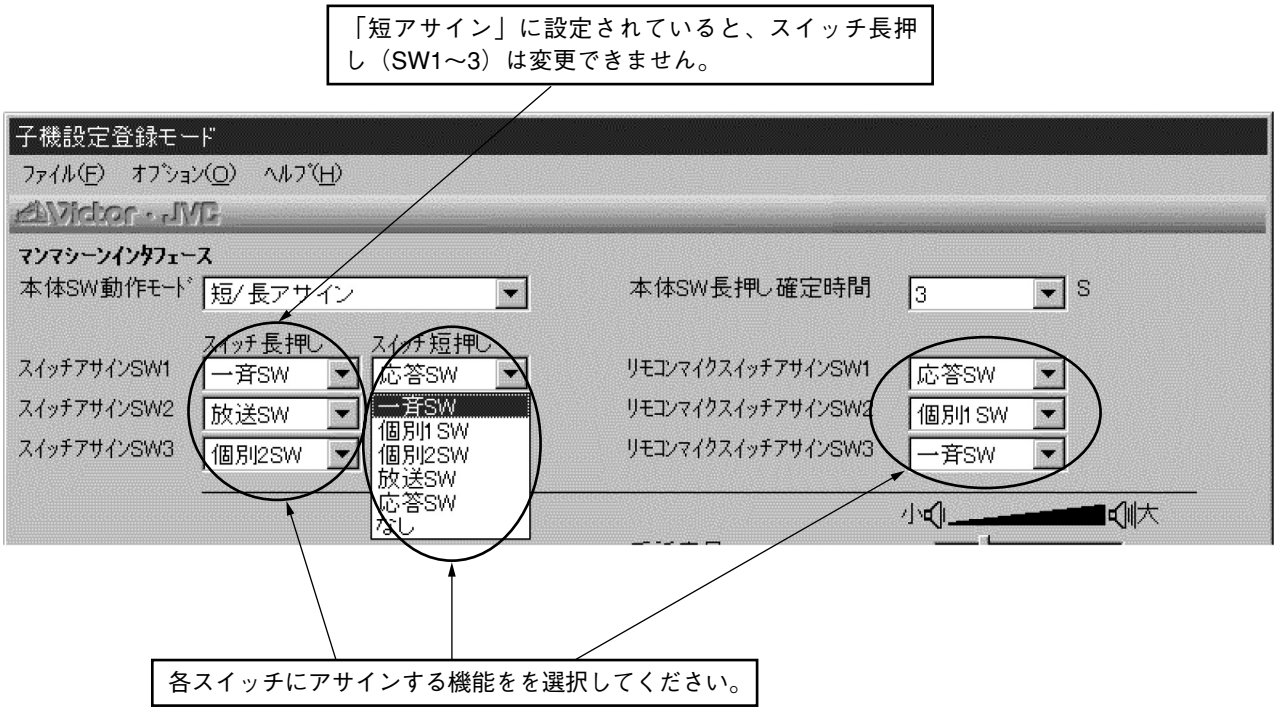
2. 本体 SW 長押し確定時間の設定

「本体SW動作モード」の設定で、「短／長アサイン」を選択した場合は、スイッチの長押しの確定時間を0.5秒から7.5秒の間(0.5 秒間隔)で設定できます。

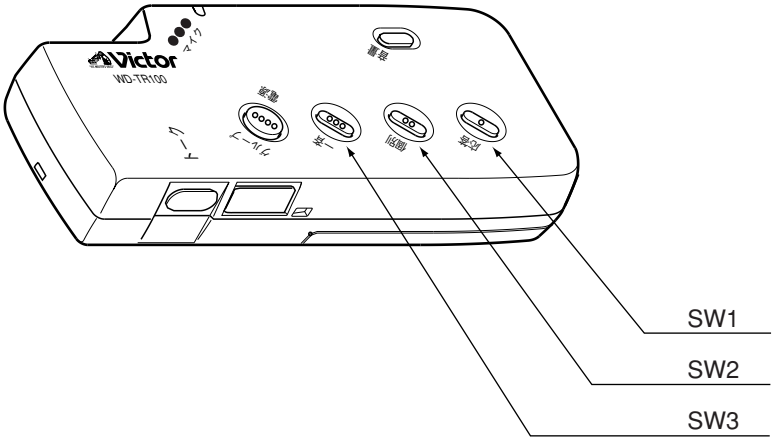


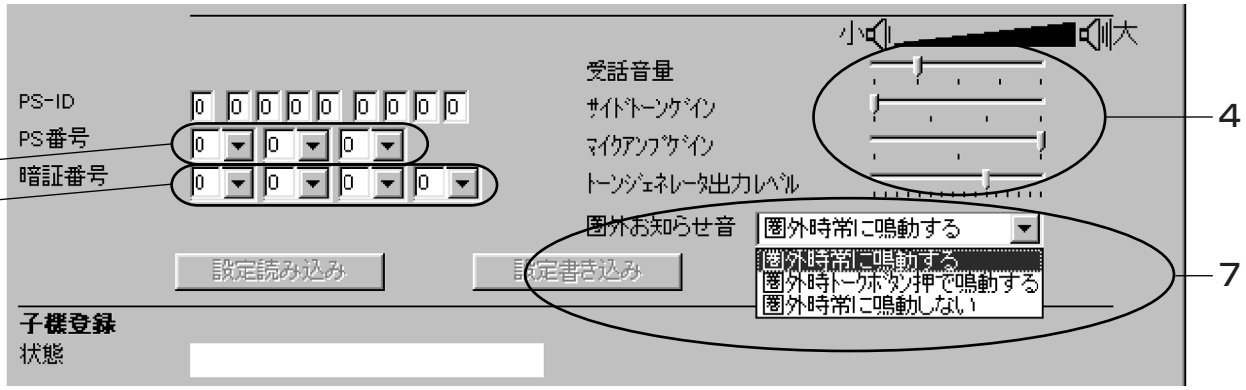
3. スイッチアサイン(スイッチ機能割付)設定

機能の割付を変更したいスイッチの「▼」をクリックして、割り付ける機能を選択してください。
「本体 SW 動作モード」の設定で、短アサインを選択した場合は「長押しスイッチアサイン SW1 ～ 3」の変更はできません。



本体 SW の位置は下図のとおりです。

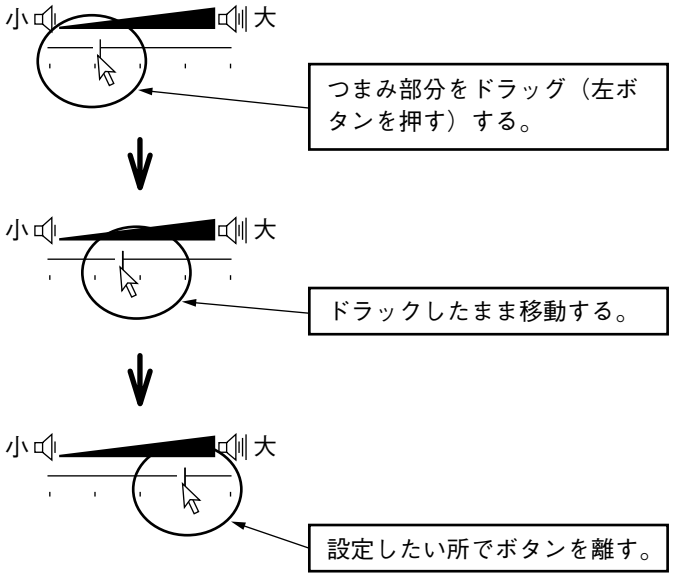




4. 音量レベル設定

「受話音量」「サイドトーンゲイン」「マイクアンプゲイン」「トーンジェネレータ出力レベル」を設定できます。
各項目のスライドバーのつまみをドラッグし、変更したい位置まで動かした後、「設定書き込み」をクリックしてください。

○ 受話音量　　；イヤホンの音量の設定
○ サイドトーンゲイン　　；自分の声がイヤホンから出る音量の設定
○ マイクアンプゲイン　　；マイクロホンの感度の設定
○ トーンジェネレータ出力レベル　；イヤホンから出る色々なお知らせ音の音量の設定



5. PS 番号設定

各桁の「▼」をクリックして選択するか、直接キーボードから入力できます。値は３桁で、各桁０～９です。半角数字で入力してください。

6. 暗証番号設定

各桁の「▼」をクリックして選択するか、直接キーボードから入力できます。値は４桁で、各桁０～９です。半角数字で入力してください。

7. 圏外お知らせ音設定

子機が圏外に出た場合にイヤホンから聞こえるお知らせ音（プープー…という音）の設定をおこないます。
下の３つの動作モードから選択してください。

○ 圏外時常に鳴動する　　：圏外時にお知らせ音が聞こえてきます。
○ 圏外時トークボタン押で鳴動する　：圏外時にトークボタンを押したときお知らせ音が聞こえてきます。（出荷時設定）
○ 圏外時常に鳴動しない　　：圏外時にお知らせ音は聞こえません。

5. 子機登録

「子機登録」をクリックすると子機登録を開始します。
子機登録中、終了時は下表の「状態」が表示されます。

状態表示	意味／説明	対処方法
アイドル動作中	子機登録の順備をしています。	ー
子機登録実行中	子機登録を行っています。	ー
子機登録制御完了	子機登録が正常に終了しました。	ー
(異常)子機登録制御失敗	子機登録が異常終了しました。	マスターセルステーションと子機の距離が1～10m程度で、再度子機登録をおこなってください。 それでも同じならば、サービス部門に問い合わせください。
(異常)電池残量無し	子機の電池残量が不足しています。	充電するか、充電されたバッテリーに交換してください。
(異常)APL エラー	子機内部で障害が発生しました。	サービス部門に問い合わせください。
(異常)コマンド終了	「子機登録中断」をクリックして強制中断しました。	ー

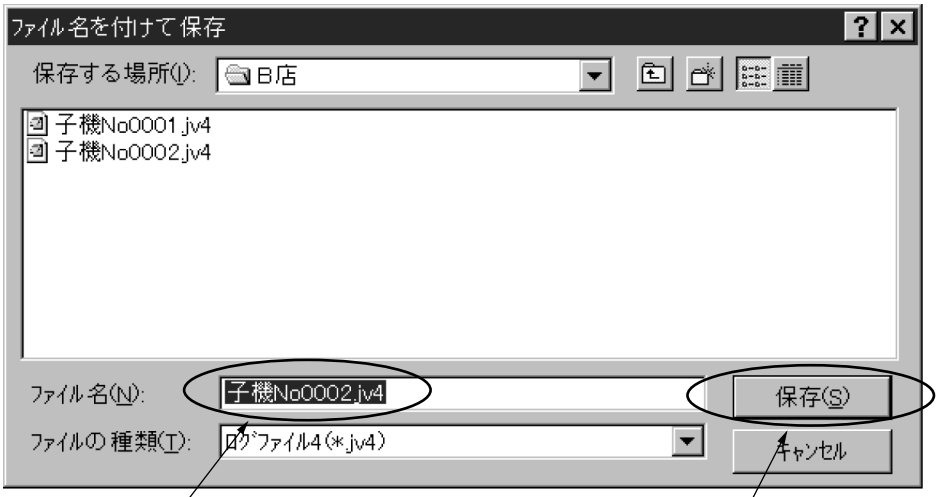
6. その他の機能

1. 設定の保存、読み込み

子機への設定内容をPCのハードディスク、フロッピーディスクに保存し、また読み込む事ができます。
別の子機に同一内容を設定することができます。
設定の保存場所は、「C:¥WDTR100設定ログフォルダ」です、P68のメニュー画面で設定を保存するフォルダ名を入力すると、「C:¥WDTR100 設定ログフォルダ」の下にフォルダができます。

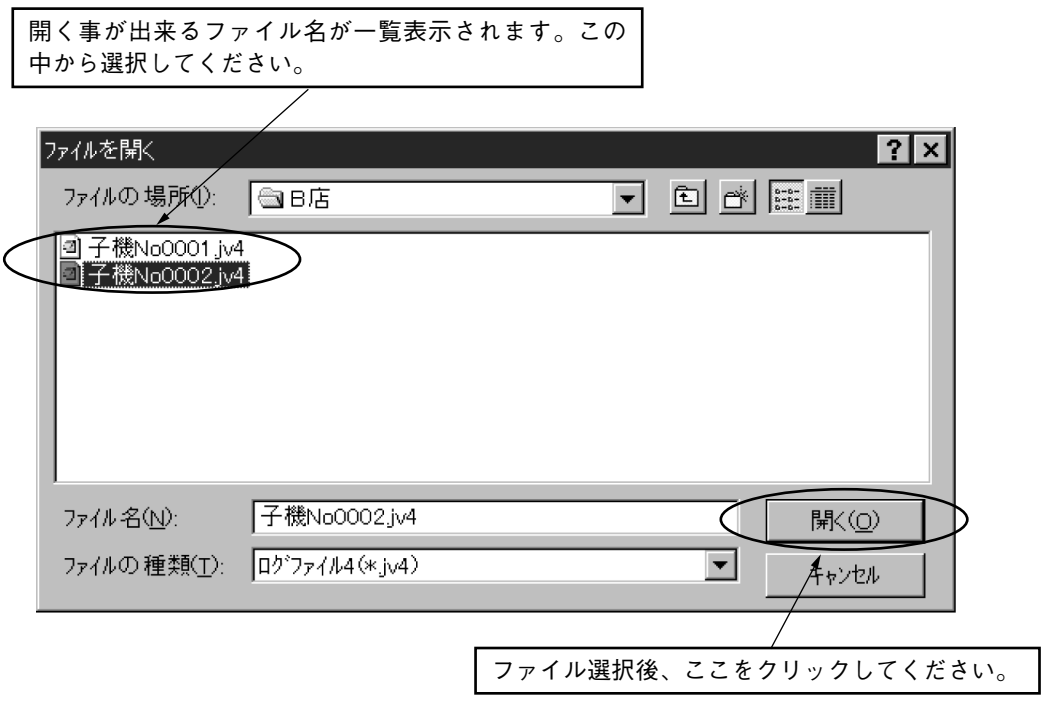
(1) 設定の保存

メニューの「ファイル」>「ファイル名を付けて保存」を選択すると、下図のダイアログが表示されます。
設定を保存する場合は、ファイル名を入力して「保存」をクリックしてください。
中止する場合は「キャンセル」をクリックしてください。
既にファイルが有る場合は警告のダイヤログが表示されます。



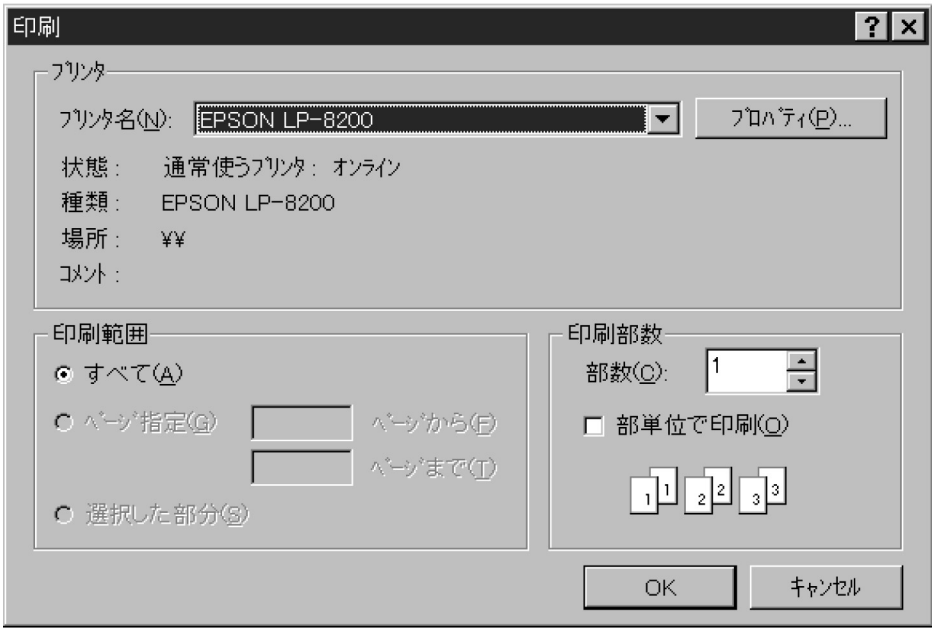
(2) 設定の読み込み

前に設定した内容と同じにしたいときや、一部を修正したいときに使用します。
メニューの「ファイル」>「ファイルを開く」を選択すると、下図のダイアログが表示されます。
設定を読み込む場合は、読み込みたいファイルを選択し「開く」をクリックしてください。
中止する場合は「キャンセル」をクリックしてください。
設定を読み込んだ状態では子機には書き込まれません。書き込む場合は「設定書き込み」をクリックしてください。

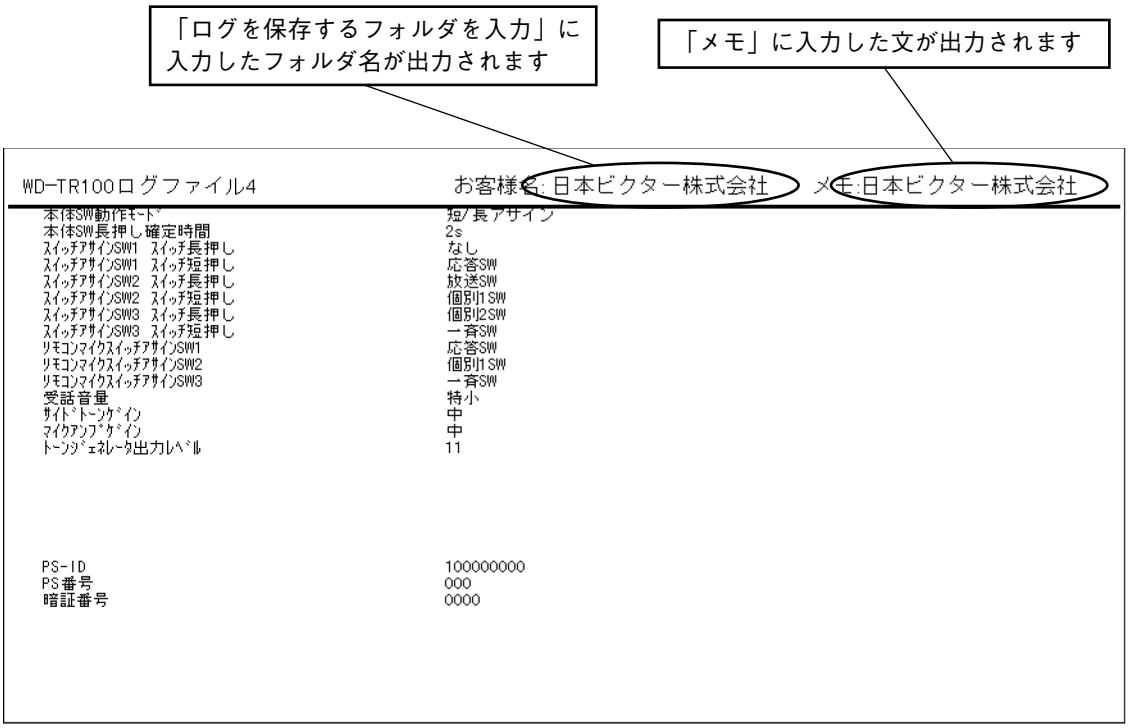


設定の印刷

設定の内容を紙に印刷するときに使用します。
メニューの「ファイル」>「印刷」を選択すると、下図のダイアログが表示されます。
「OK」をクリックで表示しているモードのデータをプリンタに出力します。中止する場合は「キャンセル」をクリックしてください。



〈印刷例〉



注意

プリンタの設定に関しては、PC とプリンタの取扱説明書をお読みください。

WD-1000シリーズ　デジタルワイヤレスコミュニケーションシステム

お客様ご相談センター

フリーダイヤル
0120－2828－17

携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は
電話 **(03)5684-9311** ［代表］
FAX **(03)5684-9317**
〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル

日本ビクター株式会社
プロシステムカンパニー
〒192-8620　東京都八王子市石川町2969-2　　電話（0426）60-7243［ダイヤルイン］

© 2004 Victor Company of Japan, Limited

SS961389-005